



ごあいさつ

福島東高等学校同窓会会長

金子 與志人



平成十六年度から同窓会会報を発行し今年度で十二号になります。

編集をしていただいている福島東高等学校教職員で同窓生の先生方に改めて感謝申し上げますと共に今後もよろしく願います。

また、毎回ご愛読いただいている同窓生の皆様には同窓会活動をご理解いただきご協力、ご支援、いろいろとありがとうございます。

同窓会は同窓生お一人お一人によって成り立ち、一年一年歴

史を積み重ねております。

後輩たちにバトンタッチ出来る様、活動してまいりますので、ご意見ご要望等ありましたらどうぞ宜しくお願いします。

さて本題に入ります。今回は二つのテーマで寄稿させていただきました。一つ目は「この時期」、二つ目は同窓会総会のお願いです。

まずは「この時期」です。「この時期」とは、この同窓会会報が皆さんのお手元に届く十二月一日の頃です。言い方を換えれば年末年始です。

この年末年始は、人それぞれに時間の流れがあることでしょう。社会人の私にすれば、下期(十一月)の中で折り返しになる時期で、決算(三月)に向

けた仕込みの時とも言えます。社会人である同窓生の多くの方は、バタバタと忙しい時と推察いたします。

また、三年生を担当する先生方にとっては、教子の岐路に一緒に立つ身として毎日が落ち着かない日々なのではないでしょうか。

「お疲れさまです。」

さて、自分も経験した高校三年間を思い出しながら学生生活にスポットを当ててみますと、一年生にとっては入学してからまだ一年間が経っていませんが「あつ」と言う間の九ヶ月間だと思えます。しかし少しずつ高校生活にも慣れ義務教育とは異なる時間の流れに自信と手ごたえ、または悩みも芽生えてくるのでは。

高校三年間の中では一年生は未っ子ですから、あと数ヶ月すると次男になります。残りわずかな一年生は後輩を受け入れる準備に費やす大切な時間となる訳です。

では、次男である二年生はこの約十ヶ月の間は、先輩に指導を受け後輩の話しを聞いたりと上と下に挟まれた状態。しかし、いよいよ高校生活の集大成である三年生の立場が近づいています。部活においては既に先輩から引きつぎ後輩と一緒に次の目標へチャレンジしていることかと思えます。四月には新一年生が入学して来ますから、また三年生が揃い賑やかな活動ができると思えます。

最後に三年生ですが、自分の時を思い出しても人生の中でそうそうないくらいの一年間だと思えます。夏休みまでは東高の看板を背負い部活中心ですが引退後は一気に進学や就職モード一色になった様な気がします。現在三年生にとっては一番忙しい時期でしょう。高校を卒業してかれこれ三十年が経過しているので詳細なことは覚えていませんが、先ほど書いた様に三年間の中で一番激動の一年間でしたから、その時を一緒に過ごした同級生は同じ仲間として今でも交友が続いています。

また、同窓生の中には子供さんが受験や就職試験の真つ只中という方もいると思えます。たぶん自分の時以上にハラハラして、まさに親心と言つてころでしょうか。高校三年間とは親子共々精神的にも成長する素晴らしい時期であり、いつまでも大切にしたいと、この歳になって少しずつ分かって来たような気がします。今年度残り数ヶ月ですが、在校生にとって有終の美を飾れることをお祈りいたします。

次に二つ目の「同窓会総会」です。二〇一六年二月十三日(日)午後五時より、二年ぶりの総会を開催いたします。前回は大雪にもかかわらず多くの方に出席をいただき改めて感謝申し上げます。一期生の先輩から卒業したての新同窓生そして恩師の皆さま、学校からは校長先生を始めとする多くの先生方にも毎回出席していただいております。

今回も一人でも多くの方々にご参加いただき、昔話に盛り上がっていただいたり、近況報告をしたりなど楽しい時間を総会後の懇親会で過ごしていただきたいと思っております。年度末のお忙しい時期になりますが、連絡のとれる同窓生をお誘い合わせになってご出席賜りますようお願い申し上げます。結びとさせていただきます。

「顔を上げて」 校歌を歌い継ぐ

福島東高等学校長 本多 光 弥



本校は今年度創立三十六年目を迎えました。同窓生の皆様をはじめ、地域の方々、関係者の皆様に支えられながらその歩みを着実に進め、先輩達が築き上げてきたものの上に、さらに新たな歴史を積み重ね、確固たる伝統を築き上げてきています。常日頃からの絶大なご支援に対しましてあらためて感謝申し上げます。

「顔を上げて 我ら開かれた道を行く 吾妻の風 阿武隈の水 空の青 みちのくの信夫が丘に 確かな夢の樹を育てよう 桜木のように 今日明日の歴史 新しい伝統 おお福島東高 学ぶことは 日々を新しくすること……(略)……」
「うつくしくせよ青春時代……(略)……」

もちろん本校の校歌、今も大事に歌い継がれている校歌です。作詞は福島市出身の詩人、長田弘氏です。深い思索を平易な言葉で語ることができた希有な人、悲しみに打ちひしがれた人を「風立ちぬ、いざ生きめやも」という気にさせてくれた人だったと、マスコミからも大変惜しまれながら、昨年五月三日に旅立たれました。本当に残念ではありません。同窓生の皆様をはじめ本校に関わる多くの方々が、この校歌を残してくれたことに感謝の念を抱いていることと思います。出会いには運命的なものを感じますし、この歌詞が生まれたのも一つの奇跡に思えます。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

を披露するとともに銀賞を受賞。全国に福島東高等学校の名を轟かせることができました。実は今回演奏した課題曲「ねむりのもりのはなし」の作詞者は長田弘氏だったのです。演奏を聴きながら不思議な縁も感じました。「いまはむかしあるところにあべこべのくがあつたんだ」と、東高生が全国のステージに立ち、ひとつひとつの言葉を大切に、精一杯、心を込めて表現している姿に胸を熱くしました。これからも更に精進を重ね、聴く者に感動を与え続けていくて欲しいと願っています。

また、十月十四日には今年度も「様々な職業人に聴く」という行事を実施しました。例年、多方面で活躍されている同窓生の方々に講師をお願いしていますが、今年には奥山拓也氏(十五期)、渡辺順氏(五期)、時崎壘氏(十九期)、押見新一氏(十二期)に講話をいただき、社会人として同窓生として後輩諸君に対して心に響く話をしていただきました。多忙な中、時間を割いていただき誠にありがとうございました。

さて、本校の現況ですが、現在各学年七クラス八百四十一名が学んでいます。耐震大規模改造工事もかなりの部分が終了し、各教室、廊下等、明るい木質のきれいな内装に仕上がっています。木の香漂う新しい教室で生徒たちは日々授業に部活動に忙しくも逞しく学び、そして明るく元気に充実した学校生活を送っています。

昨春の大学入試では、三十三期生の最後まで諦めずに頑張る姿が数多く見られ、最終的には、一橋大学商学部や名古屋大学理学部、東北大学理学部、上智大学、慶応大学などの難関と言われる大学をはじめ、福島大学三十六名、新潟大学十一名など国立大学現役合格者一〇二名、私立大学合格者四三八名という結果を残し、進学校としての実績を着実に積み重ねることができました。

また、部活動等での活躍にもめざましいものがあり、インターハイには、弓道部女子が二年連続で、また、山岳部、陸上部が出場したのをはじめ、男子テニス部、ハンドボール部が県大会決勝で惜しくも敗れたものの東北大会にそれぞれ出場しています。サッカー部の生徒は国体選手としても活躍しています。野球部は夏の大会で悲願の甲子園出場はならなかったものの、いわき海星、清陵情報、学法福島を撃破し四回戦まで進出しました。

文化部でも、合唱部が全国大会で銀賞を受賞したのをはじめ、放送部がアナウンス部門、テレビドキュメント部門、創作ラジオドラマ部門の三部門で全国大会に出場、美術部が県総合美術展で県教育長賞、書道部が書の甲子園で入選、科学部が野口英世賞を受賞するなど活躍を見せています。

秋には、男子テニス部が選抜テニス大会で東北大会に出場しベスト4に勝ち進んだのをはじめ、陸上部が全国高校駅伝大会で三位に入り東北大会に進んでいます。また、全国高等学校サッカー選手権大会福島県大会で、優勝した尚志高校に善戦し惜敗したサッカー部や三年生抜きでFTV杯に出場した男子バレー部など、来年度以降にも期待が持てる戦いをしています。

朝の課外から始まり、授業はもちろん、放課後の課外も含め、目標に向かい勉強に励む姿、文武両道を目指しひたむきに努力する姿勢、今年度行われた三年に一度の公開文化祭「東桜祭」で見せたパワーなど、三十四、三十五、三十六期生の生徒たちも元気に頑張っています。今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]
第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

[目的および事業]
第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。
1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

[会 員]
第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退職校者で総会に承認された者とする。

[役 員]
第5条 本会に次の役員をおく。
1. 会 長 1 名
2. 副会長 4 名
3. 理 事 若干名
4. 監 事 3 名
5. 幹 事 若干名
第6条 役員は次のとおりとする。

1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。
2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。

第7条 役員は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第8条 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]
第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。

[総 会]
第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。
1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事で構成される役員会に委任することができる。

[理事会]
第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

[事務局]
第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

[会 計]
第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。

第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。

第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。
第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附 則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。この規約は平成17年2月26日から改正する。

平成26年度 歳入歳出決算書

歳入金額 4,996,800円
歳出金額 4,156,258円
差引残額 840,542円

1. 歳 入 ▲は減少 単位：円

Table with 6 columns: 項目, 当初予算額, 繰入額, 現計予算額, 決算額, 増減, 備考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会積立金, 特別会計基金, 東高応援基金, 合計.

2. 歳 出

Table with 6 columns: 項目(科目), 当初予算額, 流用額, 現計予算額, 決算額, 残 額, 備 考. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 名簿管理費, 通信費, 会報郵送料, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援事業, 公開文化祭後援費, 特別会計, 各種事業積立, 50周年事業積立, 特別会計積立, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

平成27年度 歳入歳出予算書(案)

歳入金額 5,022,000円
歳出金額 5,022,000円
差引残額 0円

1. 歳 入 ▲は減少 単位：円

Table with 6 columns: 項目, 27年度予算額, 26年度予算額, 比較増減額, 備考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会積立金, 特別会計基金, 東高応援基金, 合計.

2. 歳 出

Table with 6 columns: 項目(科目), 27年度予算額, 26年度決算額, 比較増減額, 備考. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 名簿管理費, 通信費, 会報郵送料, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在校生支援事業, 公開文化祭後援費, 特別会計, 各種事業積立, 50周年事業積立, 特別会計積立, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

「東高応援基金」 協賛者名

(敬称略)

()は卒業期、()は旧姓
○「東高応援基金」について

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いいたします。同封した振込み用紙にてお願いいたします。その際、おわかりになっていけば、卒業年度もしくは何期かを記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東桜会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。
明石英紀(1)秋山達也(1)尾形幸男(1)橋内重康(1)三浦信彦(1)佐戸川政実(1)赤井義則(1)大平睦生(1)菊池浩二(1)久能靖(1)田村健(1)佐藤幸司(1)西山尚利(1)尾形信裕(1)渡辺武浩(2)佐藤健一(2)武田将英(2)永井貴博(2)相馬伸介(2)岡崎一博

- (2)目黒幹浩(2)齋藤正機(2)小野浩樹(2)金子與志人(3)齋藤孝一(3)齋藤仁久(3)佐藤智彦(3)大内則和(3)蒲倉達也(3)紺野信幸(3)佐藤和生(3)佐久間真一(3)森進一(3)安藤武仁(3)寺島健吾(3)吉留央(3)泉田太郎(3)植田光樹(3)齋藤文孝(3)小林雄(3)鈴木友彦(3)島良七(3)尾形典良(3)西條正美(3)坂巻幸司(3)山田昌信(3)吉川裕(4)上原季祐司(4)佐々木正則(4)梅津清(4)高橋秀明(4)佐藤真一(4)菅田勝彦(5)木村誠(5)小野友史(5)小竹智行(5)作山稔樹(5)丹治聡一郎(5)青木康博(5)伊藤隆志(5)大槻智朗(5)渡辺裕哉(5)上川高志(5)三宅一秀(5)富樫隆男(5)永澤憲一(5)尾形隆(5)高橋城士(6)佐藤利久(6)山川毅(6)鈴木一義(6)小橋弘人(6)遠藤孝之(6)福地誠志(6)高橋克也(6)山岸竜大(7)六戸敢一(7)佐藤幸也(7)菅野国雄(7)松本琢也(7)大波哲也(7)石原英明(8)武井慎(8)日向正仁(8)一條直人(8)江川(菅野)洋之(8)坂本勝義(8)斎藤晃一(8)安齋晃(8)大槻進也(9)菅野仁(9)栗村真之(9)川瀬哲雄(9)鈴木勇人(9)渡邊吉城(9)細野昌芳(9)尾形耕一郎(10)齋藤康隆(10)三瓶幸彦(10)内山雄史(10)篠崎秀(10)氏家賢(10)石井哲司(10)熊坂隆行(10)野口幸哉(10)本田義仁(10)橋内真太郎(10)吉田耕嗣(10)蔭山隆(10)加藤芳史(10)熊本康(10)加藤剛(10)三浦和幸(10)高橋智昭(11)宮崎康弘(11)佐竹康弘(11)高坂知秀(11)小林正宏(11)國分邦和(12)白田淳(12)齋藤讓(12)阿部友弘(12)菊地輝臣

- (12)穂苅康介(12)猿田秀和(12)吉田俊一(12)齋藤則雄(13)佐々木達(13)鈴木順一(13)渡邊勝己(13)杉原拓(13)長谷部崇(13)高橋剛(14)伊藤規義(14)齋藤史隆(14)丹治剛俊(14)嶋原克彦(14)中村充浩(14)宮本教広(14)穴戸喜彦(14)廣野功二郎(14)曳地賢治(14)紺野真人(14)木幡健一(14)佐久間祐樹(14)渡邊繁(15)齋藤訓朗(15)佐藤光太郎(15)阿部裕一(15)小澤和弘(15)菅野元樹(15)遠藤真(16)湯野澤しのぶ(16)熊坂幸代(16)古閑康宏(16)渡辺俊介(16)土屋令雄(16)渡邊亮栄(16)村木貴紀(16)阿部信一(17)上杉光成(17)嶋原智宏(17)水野裕史(18)渡邊夏未(18)野口(大槻)雪乃(18)菊田大樹(18)齋藤貴裕(18)八島春樹(18)尾形浩(18)川崎布美子(18)安達美希子(19)遠藤大輔(19)高間歩(19)渡邊祝子(19)本多純孝(19)蓬田史徳(19)浅川吉和(19)櫻田貴志(20)佐藤幸恵(20)野崎友大(20)古山由佳(20)福原充(20)中木亨(21)佐藤和美(21)伊達孝浩(21)齋藤広彰(21)佐藤宏樹(22)竹内大崇(22)本多光太郎(22)渡邊亮(22)加藤直樹(22)福原亨(22)本田由芽美(22)塩谷卓也(22)金子卓也(23)佐藤裕子(23)羽根田建志郎(23)高橋政哉(23)紺野靖(23)長島慎弥(23)水口秀一(23)菅野数宙(24)伊藤元(24)阿部兼太郎(24)菅野峻介(24)藤森良仁(24)林直人(24)佐々木宏樹(24)見城藍(24)國分優佳(24)渡辺俊介(24)鈴木春世(25)齋藤大地(25)宮本圭太(25)泉達也(25)古閑雄太(25)三浦ゆかり(26)菅藤脩平(26)菅野真史(26)中根大(26)阿部真由美(26)千代間祥之(26)北村あゆ

平成27年度在校生支援事業	
○定期演奏会・発表会補助	
・吹奏楽部	
第32回定期演奏会	50,000円
・合唱部	
第13回定期演奏会	50,000円
・ダンス部	
第9回定期発表会	20,000円
○全国大会出場への激励金	
・陸上部	20,000円
・弓道部	180,000円
・山岳部	120,000円
・放送委員会	30,000円
・合唱部	30,000円
○体育設備・ユニフォーム支援	
・グラウンド山砂	78,719円
・バレーボール部ユニフォーム	156,800円

- み(26)遠藤禎之(27)佐藤芳哉(27)安齋宏樹(27)片平陽大(27)古山彩佳(27)橋本みなみ(27)塩谷昌之(27)岩瀬里実(28)大宮誠二郎(28)畑和徳(28)澤井友平(28)渡邊ちひろ(28)大和田善愛(28)本田航(28)山崎勇貴(28)鈴木奨之(28)岡部敦(28)五十嵐給里(28)関川崇(28)尾形茉帆(29)尾形真実子(29)宗像麻衣(29)尼本瞬也(29)角田勇貴(29)菅野雄介(29)佐藤匠(29)山崎健太郎(29)佐藤尚人(29)安齋嘉章(29)三浦綾子(29)西條琢磨(29)武藤心平(29)菅野良太(30)菅直斗(30)齋藤孝稀(30)渡辺拓郎(30)菅野光太郎(30)西谷地利穂(30)渡邊翔(31)氏家遼(31)青木香奈(31)今野雄太(31)佐々木勇輔(31)澤井直久(31)長総拓郎(31)青木菜名(31)渡邊信孝(31)半澤吉将(31)菅野友美(31)三浦凌(31)吉田雅俊(31)大貫秀人(31)鈴木将稀(31)見城航(31)湯田伝一郎(31)泉諒子(31)永野拓海(31)大森純樹(32)佐藤慧(32)福富亮(32)安田稔里(32)小野祥生(32)高山可好(32)高橋悠馬(32)元村隼登(32)山岸勇士郎(32)大河内翔伊

平成二十七年四月一日から現在までに振り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありましたら、事務局までご一報下さい。

(32)菅野友香梨(32)橋内千紘(32)山田詩織(32)梶田光里(32)紺野曼利(32)中村直貴(32)紺野由夏(32)穴戸由理奈(32)浅野宏次(32)金子耕也(32)旧職員 村上啓正、瓜生浩、平山宏、佐藤馨、朽木隆、黒澤元省、矢部邦子、猪狩幸一、圓谷博一、大久保博、渡邊ひろみ、西勝文夫、迎裕仁、菊田穰、渡辺裕子、亀岡貞彰、鈴木太郎、野村恵美子、三浦賢一、皆川郁夫、渡部光子、鈴木浩一、森和茂、五十嵐彰、星和久、菅野賢一、原田啓一、渡辺州丸、山正好、齋藤和也、室井光、浦井洋子

(表1) 年度別 現役合格者 延べ人数

Table with 3 main sections showing graduation years (S57-H4, H5-H15, H16-H26) and columns for graduation year, number of students, and counts for national/public/private universities.



進路指導部主任 千葉 聡

進路

新課程入試初年度にあたる二〇一五年度は、さまざまな面で受験生に大きな影響をもたらした。特に、大学入試センター試験においては、既卒受験生の減少と受験科目の変化により、多くの受験生にとって不安の大き...

い入試になった。まず、センター試験の概況について述べてみたい。志願者数は現役では増加が見られたものの、既卒生の受験者が減ったため全体では昨年度と比較して九九・七%となり、既卒生の減少が平均点や合格難易度に少なからず影響を与...

(表2) 大学別合格者数 (平成26・25・24年度入試)

Table listing university names and the number of qualified students for the years Heisei 26, 25, and 24.

Table listing university names and the number of qualified students for the years Heisei 26, 25, and 24, categorized by public and private universities.

現役大学等進学率...33期 平成26年度生(83.65%)、32期 平成25年度生(80.07%)、31期 平成24年度生(73.7%)

えたともいえる。数学と理科は新教育課程からの出題であり、現役の受験生にとっては不安が大きかったようだ。最終的には新課程科目の「生物」と旧課程科目の「物理」の平均点に二十点以上の開きがあったことにより、十七年ぶりの点数調整が実施されている。

総合平均点は文系ではややアップ。国語の平均点が約二十点上昇したことが大きな理由であろう。低い得点帯で受験生が減少し、得点率六〇〜八割の層で増加している。また、理系では点数調整によって総合平均点こそは前年度並みであったが、数学Bや地理Bの難化により、高得点層では受験生が増加し、得点率六五〜八五%においては減少している。本校受験生の得点ゾーンとそれらの状況が重なっているということからも、三十三期担任団の苦勞がご理解いただけたらどう。

全国的状況である「文低理高」が依然として見られ、本校においても例外ではない。文系がやや盛り返してはいるが、「何となく理系」を選択した受験生にとっては、理科や数学の負担が増し、結果的に進路の選択幅を狭めてしまっていると言わざるを得ない。三年生になって突然受験生になるのではなく、自分

の適性をじっくり見極めて学習することが必要である。本校においても各種講演会等を開催し「文理選択」について考えさせる取り組みを行っているが、生徒が主体的に自分の進路について考え、途中で文転（理系から文系に転課すること）等の問題が起こらないよう、学習の環境作りにも継続的に力を入れていかなければならないと強く感じている。

次に、本校三十三期生の進路状況である。

前述のような状況の中、それぞれの生徒の前向きな努力と三学年担任団をはじめとする指導教員の工夫により、多くの生徒が進路実現を達成することができた。国立立大学では一橋大、名古屋大、東北大等の合格をはじめ、百二名の現役合格を果たした。新潟大学の十一名は過去最多タイである。福島大の三十六名は県内でも三番目に多く、後期試験まで粘り強く取り組んだ成果であったと思っている。また、私立大学においても上智、慶応をはじめとする難関大学に多数の合格を果たし、健闘ぶりうかがえる。

大学の合格者数だけが生徒の頑張りを表す指標では決してない。むしろ数字には表れない生徒ひとりひとりの努力こそが評

価されるべきものである。涙をこらえながら最後まで前向きに頑張る姿、そして、嬉し涙で声にならない合格の報告等々…。生徒の生の姿こそが私たちの誇りである。諸先輩方々のますますのご支援をお願いする次第である。

33期総括



33期学年主任
村上 英夫

瞬く間の三年間だった。平成二十五年四月の入学式はつい昨日のこのようだった。しかしその三年間に詰め込まれたあらゆる出来事は、どれも重量感のあるものばかりで、今も輪郭のはつきりとした鮮明な記憶であり、とてもそれらを総括できるような言葉を私は見いだすことができない。そこで当時の「学年便り」や「東高通信」に載せた様々な記事を振り返ることによって、三十三期の有り様をお伝えし総括に代えさせていただきます。まず、入学後まもなく開かれたPTA総会（4/20）で配布した「学年だより」から。

〈近況と今後の注意点〉
今週から本格的に授業が始まりま

した。高校の授業は、中学と比べる量が格段に増え内容は難しくなり、スピードも速くなります。家庭学習は平日で二時間、休日は三時間が最低限必要です。4/17の放課後には部登録を行い、部活動もいよいよ始動しました。体力の消耗も激しいようです。持続可能な新しい生活のパターンを確立させるまでには、今後さまざまな工夫と改善が必要だと思われまます。

〈修学旅行について〉

アンケートの結果、京都・奈良方面が23・4%、九州方面が12・8%、沖縄が60・4%でした（無回答3・4%）。今後、ご希望が最も多かった沖縄を中心として旅行計画を立案し、五月下旬に正式決定します。大きな問題がなければ行き先は沖縄といたします。旅行計画の概要は、六月十九日（火）の一学年保護者会でご提示いたします。

〈スターティサポート概況〉

新入生オリエンテーション二日目（3/27）に実施した「スターティサポーター」の結果の概要をご報告します。これは、学力水準と学習方法の状況を調べ、生徒個々

選択肢	校内	全国
①授業の進度についていけないか不安	23.6	33.0
②部活動と学習の両立ができるか不安	25.2	21.7
③通学時間が長く、生活リズムが保てるか不安	3.5	6.0
④クラスや学校になじめるかどうか不安	35.8	19.2

に学力向上法をアドバイスするための検査です。すでに個人成績表とアドバイスは生徒たちに配布しました。このデータは全体の学習状況の一部を抜粋したものです。

四月下旬に、自然文化探求学習の一環としてバスで秋保へ。散策と綱引き大会およびクラス毎にパーベキューによる昼食等の活動を行った。課題として川柳を提出した。入選作を「学年便り」に掲載した。

〈自然文化探求学習を歌う川柳の入選作品！〉

第一席 炭焼やし されと食すは 生もやし 後藤 健太（主任特別賞）

第二席 勝ちちはなし チームワークに 価値があり 大堀 瑞生

第三席 パーベキュー 野菜の固さ ヘビー級 渋谷 恰平

九月に初めての文化祭を体験。これが初めて最後の公開文化祭となった。九月の「学年便り」から。

どのクラスも、良く練られたアイディアを上手に具体化し、工夫を加え、協力しながら企画を仕上げているように思えます。「もっと完成度を追求

できた」という後悔もあるかもしれませんが、「翔華桜香」というメインテーマの目標（桜の香りのように人を幸せにする）は達成されたと思います。

以下は学年の先生方の声です。

島貴先生 ～「初めての文化祭で何をしたらよいかよく分からず部活なども忙しい中で、ここまでしっかり形にできたのはすばらしい！」

湯澤先生 ～「自力で考え自力でやることする姿勢が良かった」

渡辺(裕)先生 ～「時間がない中でよくやったなあ！」

クームズ先生 ～「いろんな生徒たちの思いがけないすばらしい一面をたくさん見られた」

柳橋先生 ～「仮装にもクラス企画にもそれぞれの個性があらわれていて楽しく見ることができました」

木村先生 ～「たくさん来てくれたお客さんに対して一生懸命に対応する姿勢に感心しました」

高梨先生 ～「Simple is the best!」

一年生らしい発表で、良かった！
教頭先生 ～「内容では三年生に及ばないけれど、一年生の一生懸命さが伝わってきました」

一学期に東高OBの方々においていただき「さまざまな職業人に聞く」を実施。十一月の「学年便り」より。

「さまざまな職業人」より一年生へのメッセージ

総合学習「さまざまな職業人に聞く」の実施目的は、職業人が何を理想とし、何にこだわりながら何をやりがいとし、どのような工夫をしながらどれほどの厳しさで物事に携わっているかを感じてもらったことでした。仕事の真のやりがいとは何なのか、それに対してどのような想いでかかわっているのか、その姿勢を感じることができたでしょうか？ さて、忙しい仕事の合間をぬって来校してくださった十人の先輩たちが、分科会終了後に、皆さん全員に下記のようなメッセージを残してください。

講師名(職種)	1年生へのメッセージ
星 達雄さん(警察官)	「栄光の架け橋」を胸に刻みながら頑張ってください！
栗原 功さん(水道局)	勉強は今しかできない。今ほど勉強に専念できる時はない。目標を持って頑張
齋藤 正機さん(画家)	「感じること」が大事！
梅津 真樹さん(コピーライター)	お笑い、感動、一生懸命！
穴戸 拓弥さん(樹木医・庭師)	世界は君らを待っている。
穴戸 英樹さん(養護学校教)	多くの経験を積んでほしい。無駄になる経験はない。
古川 雄二さん(新聞社員)	勉強も必要だけれど、本をたくさん読んでください！
大栗 隆さん(放射線技師)	どのような形でも良いから、人の役に立ってほしい。頑張ってください！
栗田 淳史さん(経営コンサル)	仕事とはお客様からたくさんの「ありがとう」をいただくことです。
佐戸川 政実さん(会社経営)	成長は素直さに比例する。頑張ってください！

一年次の生活指導の中で特に配慮が必要となった案件の一つが、携帯電話(スマホ)の利用法であった。生活のリズムを乱し、学習時間の確保を困難にし、睡眠時間さえ不十分になるほど長時間利用する問題点の他に、着信音が授業をストップさせる

こともあり、強く注意を促した。以下は三学期の「学年便り」より。

ルール遵守を強く求めます！

三学期に入ってから二件の特別指導がありました。二学期にマナーが乱れた時、学年全体でルール徹底に取り組んで、最近ようやく「みんなの自己規制を信頼できるかな？」と感じていたので残念です。

クラス替えについて

今日、新クラス編成を発表します。新クラスは次のような観点を考慮しながら編成しました。

- ① 三年次の選択科目
- ② 各クラスの成績(定期考査および模擬試験等)の平均値
- ③ 進路希望
- ④ 男女比
- ⑤ 部活動毎の人数

さて、二年次を迎え、クラス替えにより文系と理系それぞれ四クラスずつの新編成となった。また産休を控えたクームズ教諭(英語)に代わり鈴木栄教諭(数学)が新担任に、副担任の山下教諭(公民)が教務主任として学年を離れ、代わりに荒教諭(地歴)が副担任として加わった。新クラスで新たな緊張感に包まれて過ごした六月の「東高通信」より。

1 二年生の第二ステージへ！

多くの部活動や生徒会から三年生

が引退し、二年生が組織の中心となりつつあります。一年前とは比較にならないほどしっかり工夫しながら活動しているようです。目つきや言葉遣いが頼もしくなりました。(中略)

2 学習は正念場へ！

二年生の前半は学習成績が大きく変動する時期です。そして秋以降は順位がほぼ固定化されると言われます。秋は受験を意識して勉強に力を入れ始める生徒が多くなり順位は簡単には上がりません。秋までに弱点を克服して基礎学力を固め、修学旅行後はスムーズに受験勉強に移行しなければなりません。忙しい時期ですが妥協しないよう生徒に伝えています。しかしこの時期は、一般的にも緊張が弛緩しやすい時期です。いわゆる「中だるみ」です。(中略)当面の学習の目標となるのは、二週間後に迫った期末考査(6/24)と進研模試(7/6)です。

緊張感が緩み、中だるみしやすいと言われる二年生の夏休み直前、七月「学年便り」から

〈大学受験を意識した学習スケジュールをそろそろ考えなければならぬい！〉

三年生になってからでは間に合わないが、国語、数学、英語の基礎固めです。この夏休みは弱点補強の大きなチャンス。秋から冬にかけて結果を残せばスムーズに三年の受

験期を迎えられます。逆にこの四ヶ月を無策に過ごせば挽回は難しくなるでしょう。模擬試験は八月と十一月です。まず全統模試を目標にして八月十六日からの「夏期学習会」(「ラッセ福島で実施)で、基礎固めと弱点補強を図ろう。

文化祭と修学旅行がほぼ連続した日程で行われた直後の、九月「東高通信」より

1 文化祭

各クラスとも趣向を凝らしオリジナリティーのあるユニークな内容でした。三年生の企画運営力には及ばないもの的大いに健闘しました。短い準備期間に部活動や勉強と並行して協力しながら作業を進める手際も良かったと思います。

2 修学旅行

台風の影響はなく四日間とも好天で沖繩の熱い日差しと青い空と海に迎えられました。生徒たちが集団行動の要点をよくわきまえて行動し、大きなトラブルもなく、すべての行程がほぼ時間通りに進みました。首里城見学から始まり、最終日の米軍基地の見学で終わる今回の旅行は、沖繩の歴史を古い順にたどりつつ風土と自然に触れるという趣旨でしたが、どの場所でも熱心に見学する姿が見られ、糸数アブチガマのガイドさんをはじめ現地を案内してくださった方々から「見学の姿勢が熱心で静粛

を保ち、とても立派な生徒さん達ですわ」とほめていただきました。体調を崩す生徒はほとんどなく、感性と知性の感度も良好で、元気に精力的にすべての行程を楽しむことができたと思います。

3 修学旅行後は進路希望実現のため
の大事な転換点！

修学旅行後に受験準備体制を作っていくのが進学校でのセオリーです。志望校を具体化し、合格するために必要な受験勉強の要素を、普段の生活の中に意図的に入れ始めるのがこの時期です。学年では次のような対策を策定中です。

- ①個別面談の実施 ②進路講演会の実施 ③朝課外の実施

部活動から三年生が引退した六月以降、活動の運営の主体となり、戸惑いながらも徐々に実績を重ねて先輩としての自信を深めながら迎えた新人大会も一段落し、受験態勢を意識させた「秋の十月」「東高通信」より

「朝課外」スタート

朝課外が十月十五日に始まってから約一ヶ月になりますが、遅刻者も欠席者もなく順調に進んでいます。七時三十分から三十分間の集中講座を、国語、数学、英語それぞれ週に一回ずつ、三月まで計十二回展開する予定です。

個別面談実施中

放課後等に個別面談を実施しています。どの生徒も進路に対する意識が高まり、学習への意欲や姿勢が前向きになりました。やり方を工夫し学習時間を増やして成果が現れている生徒が増えています。一方、焦りつつも改善努力が足りず成績が落ちている生徒もいます。面談では何をどう変えるべきかを、実情に応じてアドバイスしています。

一年生の三学期は、三年生ゼ口学期とも呼ばれる。二月に入り主要な大会が終わった部活動の焦点はいよいよ最後のインターハイ、そして勉強もいよいよ受験が見えてきた時期の、「二月「学年便り」より

【進研マーク模試迫る！】

一年生最後の模試！二年間の集大成のつもりで準備し、結果を出して三年次へつなげよう。カンや雰囲気できず実力ではない。明確な根拠をもとに解答しよう。みんなには初めてのマーク模試なので、以下の点に配慮しよう。

- ①鉛筆を用意する (HBを最低五本)
- ②問題用紙にも必ず解答に印を付す (自己採点に必要)
- ③解答用紙を間違えないこと (理科と社会)
- ④時間配分に注意すること

いよいよ三次。クラス替えを行ったが、科目の履修パターン

ンに大きな変更はなかったために、クラス替えとしてはメンバーの入れ替えは小規模となった。学年団スタッフのうち、副担任の田中教諭(体育)と荒教諭が抜け、渋川教諭(英語)と荒川教諭(地歴)が加わった。田中教諭の「学年は離れても心は常に三十三期と一緒」という言葉が印象に残っている。4月「東高通信」より

今年は大成功の一年です。部活動や勉強の目標が達成できるよう、また進路希望を実現できるよう、妥協なく全力で前進することを願います。今後の目標は以下の三つです。①最

- ① 高学年生として、二年生を導く
- ② 部活動の総仕上げ
- ③ 受験生になる(学習メニューを整える/学習時間を増やす/「理解」と「暗記」を区別する/授業を大事にする)

さて、三学年としてまた学校全体として、今年度は下のような指導内容を留意しています。生徒たちの成長に資することができるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

- 授業第一主義の徹底
- 課題の精選と提出の徹底
- 追試実施体制の組織的な展開
- 個別面談
- 4〜5月/夏休み(三者面談)/冬休み(三者面談)/センター直後(必要な生徒のみ)
- 学年通信の発行
- ↓毎月+必要に応じて随時
- 模

擬試験の実施 ↓ 6/13、14、7/4、5、8、9、10、9/5、6、9、19、20、10/4、5、10/17、18、10/24、25、11/7、8、11/28、29、12/5、6、1/5、6 ○朝課外(4月) ○平常課外/二次課外 ○土曜学習会 ○土曜講座 ○小論文指導 ○推薦入試対策指導(面接等) ○二次対策講座(2月) ○合同HR ↓ 4月、6月、7月、8月、12月+必要に応じて随時 ○センター試験激励会 ↓ 1/16 ○自宅学習事前指導 ↓ 1/30 ○保護者会および進路講演会 ↓ 5/27

ほとんどの生徒が最後の大会を終えて部活動を引退し、受験体制に突入したが、そう簡単に結果にはつながらない。九割近くの三年生が六〜九月まで部活動に全力投球する東高校生は、例年、受験本番ギリギリまでがんばり続けて最後の土壇場で追いつき追い越すのが身上である。あきらめず焦らず緩まず受験直前まで頑張りきれよう叱咤し、励まし続ける日々がここから始まる。七月「学年便り」より

現 状

・6月進研マークの全体成績と主要教科の一部(英語と数II)は全国平均を下回った。
・授業中の反応やテストの答案内容の質が悪く、日常の学習の量と質が

不足している。
・落ち着かないクラスがあり静かに学習している生徒が迷惑している場面も見られる。
今後の心構え
・第一志望(群)を最後まであきらめず、受験科目を減らさない
・学習時間を増やし学習量を増やす
・休み時間などの「スキ間時間」をさつに有効活用する
・今後六ヶ月間の学習時間のペース配分を考える

- 【文系】 七月から九月〜国数英：理社 ↓ 4：1 十月から十二月〜国数英：理社 ↓ 2：1
- 【理系】 七月から九月〜数英理：国社 ↓ 3：1 十月から十二月〜数英理：国社 ↓ 4：1

その後も学年全体の受験への挑戦は苦戦を続ける。十月「学年便り」より
卒業まで約四ヶ月！ みんなの文武道を極めるための修練は、まもなく完結しようとしています。

部活動はすでに引退し、みんなの心の中には満足感だけでなく後悔や悔しさが残る人もいかもしれません。しかし最後の大会がどのような形で終わったとしても、みんなが活動を通して得た無形のもの、自分自身を大きく成長させたことは確信できるはず。さて、「文武両道」の「文」、つまり勉強の総括も、一つの形となっ

て現れる時が近づいています。ほぼ全員が受験するセンター試験まで、あと一ヶ月半、約八十日です。New Year Give up!

例年、センター試験前日には激励会が行われる。インフルエンザで受験できなくなる生徒がいるのではないかとという危惧があったが、罹患したのは学年主任だけ。激励会の日も試験当日も自宅療養せざるを得なかった学年主任から、センター試験激励会でのメッセージ

チャレンジジャーとしてベストを尽くしてください。東校生のスピリットを示すべき時が来ました。場所がいつもの教室から県立医大の教室に代わっても、ひたすら問題に対して誠実に集中して取り組むのみ！平常心で集中あるのみ！布団の中でひたすらみんなの健闘を祈り続けています。

センター試験の結果と全体の合否状況は、他紙の資料に譲る。目標に手をかけた生徒も、妥協と苦しい選択をせざるを得なかった生徒も、その選択が人生において正解だったのかはまだ分からないが、いずれにしても、校歌にあるとおり、一人一人が「顔を上げて...道を行く」ことを願い、それぞれの花がいつか美しく咲くことを祈りつつ、卒

業式を迎えた。いろいろなことがあったが、それらを思い出しつつ感じるの、みな愛すべき生徒だった、ということである。

三十三期の生徒達を乗せて航海を続けてきた船は、約束の寄港地に到着した。波にもまれて思うように進まないこともあったが、一人一人の、前進しようとする真摯な姿勢と、未来を切り拓こうとするエネルギーが、船を目的地に運ぶ推進力となり、旅を完結させる原動力になったのだと思う。

彼らの次の旅はすでに始まり、彼らの新しい船は三三〇度の様々な方向へ進んでいった。その後ろ姿を見送りながら、その先に広がる世界のことを想う。前途は楽ではなく、航路もそれぞれ全く異なった疾風怒濤の旅になるであろうこと、巨大な波にもまれて軸足を失うほどの揺れに耐えなければならぬこと、次の寄港地は決して約束されてはいないこと、しかしその先には輝きにつつまれた大きなステージが待っていること...

しかし彼らは優れたポテンシャルを備えた発展途上の有能な航海士である。「顔を上げて」、日々を新しく「し、昨日までの自分を超えていけると信じる。

全国大会出場報告

和歌山インターハイに

参加して

陸上競技部顧問 菅野 悟史

七月二十九日から和歌山県で開催された全国インターハイに陸上部の穴戸大夢（三年二組）が走り幅跳びに出場した。常日頃から生徒には、「陸上競技は個人競技であるが、一人では強くなれない競技であり、辛い練習を乗り越え、励まし合う仲間や支え応援してくれている保護者の支援があつて強くなれるのである。」と伝えていた。今年は一人的みの出場であつたが、部員全員で勝ち取った全国大会出場だと思つている。

また、今年で四年連続での全国インターハイ出場であるが、今年も全国大会に出場できることとや連続出場を継続できたこと



とに多少ほっとしたのも事実である。

さて、試合は三十一日に予選と決勝が行われた。本来であれば直前まで福島で調整をしたいところであつたが、初めての全国大会ということもあり、早めに現地に入り、会場の雰囲気慣れしておくために二十八日に和歌山入りし、現地で調整を続けた。今年の福島ほどではなかったが、和歌山も非常に暑かつたので、練習を午前中に行い、午後は宿舎で休むように心掛けた。

予選通過記録は7m20。大夢の自己記録は6m96で決勝進出には自己記録の更新が不可欠であつたが、全国大会出場を決めた東北大会では自己記録を35cmも更新するミラクルを起こしているだけに今回も決勝進出（自己記録の更新）を目標に試合に臨んだ。

一本目は7m00付近まで跳んでいたが惜しくもファウル。二・三本目は全く自分の跳躍ができず、残念ながら、予選通過記録を超えることができなかった。

本人は、中学時代に県

大会で優勝した選手ではあるが、全国大会は初めての経験であり、大会会場までの移動や選手控え場所などこれまでの大会とは大きく違い、戸惑いも大きい中での試合であつたと思う。また、直前に腰を痛めるなど万全の状態ではなかつたが全国大会を経験できたことは、今後の彼らに生にとつて大きな財産になったのではないだろうか。

来年も大夢に続く後輩が出てきてくれることを切に願ひながら、来年へ向けてさらに精進し、部員とまたこの舞台に戻つてくれるように頑張りたいと思う。また、今後は出るだけでなく入賞、優勝を目標に生徒とともに頑張つていきたいと思う。

(十一期生)

弓道部とともに(奈良)

インターハイ出場によせて

弓道部顧問 千葉 聡

今年度の奈良インターハイは、我が弓道部にとつて二年連続五回目の出場となる。また、全国選抜大会を含めた全国大会への連続出場は二十九期生から六年続いている。平成十五年度に同好会として発足し、ようやく校内に四人立の弓道場が完成し、校内で練習を開始したのが平成十九年度。練習場所が手狭であ

るため、南庭利用を開始したのが平成二十一年度。弓道場の屋根完成が平成二十三年度。昨年度、巻藁場に屋根がかかり、狭いながら何とか雨天でも練習できる環境になった。印象深いのは平成二十三年度の屋根建設の時のことだ。雪降る中、生徒と共にコンクリートの基礎作りをしたのが懐かしい。それ以来、少しずつ練習環境を改善しながら現在に至っている。何よりも生徒の前向きな努力が継承され、伝統として引き継がれていることが嬉しい。

さて、今年度の奈良インターハイは、桜で有名な吉野町で開催され、選手は全国大会経験を待つ三年生（梅津舞・佐藤美涼・若梅紗織・渡邊ひより）、本格派の三年生（佐藤瑠璃）、成長著しい二年生（菅野彩花・佐藤綾音）の七名。現地で実施するために模擬試験の問題を持ち込み、文武両道の東高を実践するべく本会場練習と学習を積み重ねた日々が思い出される。大会会場は運動公園内体育館の特設弓道場。控室にエアコンは設置されているものの、練習会場は日差しがきつい。移動車内のエアコンも常に最高のままだった。今年度は、直前まで白河高校（男子団体出場校）との合同練習、



習、東北関東地区代表校との練習会で弘前への遠征と、夏休みを利用してじっくりと調整してきた。仕上がりも上々、選手自身も期待をもって大会に参加することができた。しかし、大会成績は予選敗退。五十八チームから三十二チームの決勝トーナメントには残ることは叶わなかった。

しかし、嬉しいこともあった。帰福後に宿舎の方からいただいた一通の手紙だ。彼女たちの宿舎での生活ぶりについて触れ、その後の受験勉強の様子を気遣う内容だった。彼女たちの誠実な姿が、館主の心を動かしたらしい。同世代のお子さんを持ち、弓道経験者でもある館主の、愛情たっぷりの文章がそこに並んでいた。「頑張る子供を心から

応援したい」と思う気持ちは全国共通である。そんな子供たちと八月の数日間を共に過ごせたことを心から有り難く、誇らしさと感じている。

最近思うことがある。この弓道場が十年後も二十年後も真剣に頑張る生徒たちであふれていてほしい。そのために今ここにいる生徒たちと毎日を全力で過ごしたい。菅野彩花（二年）は十二月の全国選抜の出場権を獲得し、男子団体（峯岸駿行・小野颯・白坂唯斗・寺田侑矢）は東北選抜の出場権を獲得している。文武両道の福島東高校弓道部がますます輝きを増してきている。

滋賀インターハイに参加して

山岳部顧問 村上 英夫

2015年全国高校登山大会の開催地は、琵琶湖の西に連なる比良山系と高島トレイル。最高峰は九〇〇Mあまりで、低山の長い尾根筋のコース。低山は暑い。加えてエルニーニョによる猛暑の予想。大会に参加するにあたり取り組んだのは暑さ対策である。

まず第一にトレーニング強化。三泊四日のハードな行程を歩き通せるよう、体力と心肺機能を高めながら、熱中症にならない

よう代謝機能を高める。そしてもう一つのポイントは装備の厳選と軽量化。これには生徒会と同窓会からいただいた資金を活用し、速乾性に優れたユニフォームや、軽量で防水性の高いザック、通気性の高いテント等を購入。

八月七日の開会式から十一日の閉会式まで、日本列島は安定した高気圧に覆われ、ずっと好天。そして予想通りの酷暑となったが、対策が功を奏し、危惧されたリタイアも体調悪化もなく、福島東高の四人のパーティーは元気に完登し、すべての課題をクリアした。

競技では、事前に作成した計画書の内容審査や、装備品の確認、歩行技術やテント設営技術の審査、天気図の作成、地図での地点確認、救急対処法の知識、さらに地形や植生などのペーパー



琵琶湖をバックに

テストもある。そして最も大きなポイントは体力。辛そうな顔つきで歩いたり、前の選手から五メートル以上遅れて歩くと減点される。これらは厳密に点数化され、総合得点で順位が決まる。

四名の選手 三の六 菱沼慎吾、三の四 佐藤広夢、三の一 長沢楓、二の七 佐藤周平 は、よく頑張った。事前の下調べと準備に二ヶ月かけ、三年生の三人は受験勉強の合間を縫ってトレーニングに精を出した甲斐あって、元気に立派にすべてをやり抜いた。いくつかがミスが重なって成績は振るわなかった（八五・二点）が、他県の選手達と仲良くなり、テントを囲み、楽しく交流する場面もあり、かけがえない時間を過ごした。

そして何よりも大きな収穫は、大会参加を通して得られた技能と知識だ。そのノウハウはこれからの山岳部にとって大きな財産である。他県のチームから学んだこと、失敗からも得た教訓もすべて、今後の東高山岳部の貴重な宝となった。それらを今後の活動に生かすことが、各方面からいただいた援助と支援に対する恩返しになると考えている。

NHK杯高校放送コンテスト
 全国高校総合文化祭(滋賀びわこ総文)放送部門に参加して
 放送委員会顧問 伊藤 規生

今年NHK杯高校放送コンテスト(以下「Nコン」)に番組一本+個人一人進出、また全国総文祭(以下「総文」)に参加権と数年一度の「当たり」の年でした。Nコンは例年通りですので省き、総文について記したいと思います。

参加権を得たのは「アナウンス(個人)部門」で、郷土の話題をニュース原稿に仕立てて発表するというものです。参加生徒は三年女子、飯館村の出身です。現在も梁川の借り上げ住宅に住んでいます。人気のほとんどなくなった飯館村をボランティアで巡回する「飯館見守り隊」を紹介するという内容で、県予選を一位(アナウンスで県一位は私の顧問歴中でも初めてです)で勝ち抜き参加権を得ました。本番では練習以上のものを出してきて、本人としては満足ゆくものだったようですが上位に入賞するまでではなかったようです。三年間の活動の締めくくりとして、区切りをつけられる発表だったと顧問は思いました。

毎回の同窓会からのご援助に感謝申し上げます。生徒の旅費自己負担(二割自己負担)の軽減の用途で有効に使わせていただきました。来年もいただけるように頑張りたいと思います。(一期生)

全国大会出場報告

男子テニス部顧問 朝倉 昭博

男子テニス部は三月二十一日〜二十六日まで福岡県博多市で全国選抜高校テニス大会を戦って参りました。新人戦県大会を2連覇し、二十五年度にベスト8で敗退してしまつた東北大会でのリベンジを果たし、東北三位での出場でした。念願であつた団体戦での全国大会出場は部員全員にとつて大変うれしいことでした。インターハイの団体戦五人制とは違って、選抜大会は九人制で選手層の厚さが重要な大会です。選手は経験者から初心者までレベルが大きく違います。上位の選手が下位の選手のレベル向上のために自己を犠牲にして練習したり、逆に下位の選手は上位選手に追いつくために必死になつて練習したりと本当にチームが一丸にならないと勝ち上がることができない大会でした。それを勝ち上がったということは福島東高校テニス

部一人一人にとつて大変名誉なことでした。全国大会までの期間も雪で練習のできない中、トレーニングや県外遠征や大学生との練習試合で日々自分達を磨き続けました。

団体戦一回戦は関東代表栃木県の足利工業大学附属高校でした。関東の強豪高校でした。最初に入るシングルスナンバー1の小川雄大が相手のエースに互角に戦い、ダブルスナンバー1の小山・高橋ペア、シングルスナンバー2の瓦吹拓人、ダブルスナンバー2の玉手・佐藤ペアも健闘しましたが、残念ながら敗退してしまいました。シングルスナンバー3の角掛未来が最後に一矢報いる形で勝利はできましたが、1-4で敗退しました。サポートメンバーの佐藤・長谷川も最後までチームのために尽力してくれました。しかし、選手にとつては今までは見ることができなかった上のステップを体験できたことはこれからの人生の大きな財産になるでしょう。このあとに各代表校のナンバープレーヤーによる個人戦も行われました。この試合ではエースの小川雄大が初戦を突破し、二回戦まで進むことができました。これも大きな財産となるはずですが。

最後にこのような舞台上に監督を連れてきてくれた選手諸君に感謝です。そして、ここまで温かい目で見守っていただいた保護者の皆様、関係者の皆様にごの場を借りまして感謝申し上げます。今後とも引き続き生徒の成長を第一に考え、努力を重ねてまた同じ舞台上に立てるように、そして全国で勝てるようにチームを作つて参りたいと思います。(十期生)

全日本合唱コンクール

全国大会出場報告

合唱部顧問 星 英一

福島東高校合唱部は十月二十四日に埼玉県大宮ソニックシティで開催された第六十八回全日本合唱コンクール全国大会高等学校B部門に念願の初出場を果たし、銀賞を受賞しました。

本校合唱部に私が赴任したのは平成二十二年のことでした。それ以来の五年間に全日本合唱コンクール東北支部大会で三回金賞を受賞しましたが、俗にいう「ダメ金」で、あと一步のところまで全国大会には手が届かずに来ました。「東北を制する者は全国を制す。」と言われるほどレベルの高い東北支部大会の壁に跳ね返され続けた五年間でしたが、ようやく今年、その

壁を打ち破り悲願の全国大会出場となりました。

東高校合唱部は総勢三十八名です。百名超の高校が複数出場する高校B部門において、全団体の中で最も少ない人数でしたが、本番ではどの団体にも引けを取らない素晴らしいパフォーマンスを披露してくれました。今回の全国大会で嬉しいことがありましたので報告します。

表彰式が終了してホール入口付近で生徒と帰る準備をしていたところ、一人の男性が近づいてきました。自由曲の作曲者の鷹羽弘晃氏が会場において、たまたま福島東の演奏を聴かれて「自分の内面をすべて見られてしまったような気がした。」という言葉をいただきました。作曲家としての演奏者への最大級



の賛辞だと思えます。その後、今度は若い女性が来られました。課題曲作曲者の山下祐加さんと、「言葉を大切に作曲したつもりだが、それを見事に表現してくれた。」という賛辞をいただき、自分たちの演奏がしっかり客席に伝わったという充実感を味わうことができました。また、演奏後に会場で販売された実況録音盤のCDも、福島東の演奏は即完売になったという嬉しい反響もありました。

今後は、一、二年生の新体制で全国大会への誇りを胸に、演奏面でも人間面でも更なる高みを目指して合唱部の新たな歴史を築いていきたいと思えます。応援いただきました同窓会のみなさまに深く感謝いたします。今後とも福島東高校合唱部をよろしくお願い申し上げます。

国民体育大会に出場して

サッカー部・二年一組

櫻井 諒

私は今回、和歌山で開催された第七十回国民体育大会に参加しました。今思うと、自分がある大舞台に立てたなんて信じられないように感じます。

一月の候補合宿から始まり、尚志高校や聖光学院などの強豪校の選手がいる中、自分は最後



まで残ることができているのかと不安で仕方がなかつたです。それでも、「自分の持っている力を出し切る！」という想いでやっている、そんな不安もふつ飛び、最終選考をなんとか通過し、東北総体のメンバーに入ることができました。初めて手にした福島のユニフォームに胸を躍らせながら、東北総体の日を迎えました。初戦の秋田県は、アディショナルタイムの得点で勝利。

二回戦の宮城県とは、二周目にも突入したPK戦の末、敗北。そして、東北第三代表決定戦の山形県には逆転勝利を飾り、国体への切符を獲得することができました。しかし、私はそのピッチに一度も立つことができませんでした。そんな悔しさを胸に、国体までの一カ月間チームで上

達に励ましました。そして迎えた本大会。初戦は中国地方一位の広島。いつものようにチーム全員で円陣を組んで臨みました。そして後半、ついに国体のピッチに立ちました。しかし、その時には四点も取られていて、自分も失点してしまい、0-5と大敗してしまいました。全国レベルのサッカーを、身を持って思い知らされました。それでも、最後まで福島らしい粘り強いサッカーをすることができたと思えました。

悔しさが残る結果になりましたが、私はこの福島国体のメンバー、スタッフと一緒に戦えたことを誇りに思っています。国体で学んだことを糧とし、自分へのこれからの人生のためにも、サッカー選手として、そして人間として成長していきたいと思えます。



平成26年度部活動報告

●運動部

- バドミントン部
 - 福島県高等学校新人大会
 - 男子団体戦 出場
 - 男子ダブルス
 - 渡邊・齋藤組 出場
 - 男子シングルス
 - 齋藤優汰 出場

テニス部

- 福島県春季選抜シングルス
- 二ス選手権大会
- 男子
- 3位 小川雄大

●文化部

- 合唱部
 - 第8回声楽アンサンブルコンテスト全国大会高等学校部門

平成27年度部活動報告

●運動部

- 野球部
 - 第67回春季東北地区高等学校野球福島県大会東北支部予選 (4月24日から5月5日)
 - 2回戦 7 0 保原
 - 3回戦 4 5 福島工業
 - 敗者復活3回戦
 - 5 4 福島北
 - 代表決定戦
 - 9 2 福島西
 - 第67回春季東北地区高等学校野球福島県大会 (5月15日から18日)
 - 1回戦 0 10 聖光学院
 - 第58回春季東北支部高等学校野球選手権大会 (6月12日から16日)
 - 2回戦 2 5 福島工業
 - 第98回全国高等学校野球選手権福島大会
 - 1回戦 5 3 いわき海星
 - 2回戦 5 0 清陵情報
 - 3回戦 8 0 学法福島

サッカー部

- (準優勝)
- 平成27年度第61回福島県高等学校体育大会サッカー競技東北地区大会 (5月8日~11日) 第2位
- 1回戦 8 1 松韻福島
- 2回戦 5 0 福島南
- 準決勝 2 0 福島

決勝 1 1 聖光学院 (PK4 5)
 平成27年度第61回福島県高等学校体育大会サッカー競技 (5月23日) 25日、30日、31日とうほう・みんなのスタジアム、福島市十六沼公園サッカー場、相馬光陽サッカー場、ベスト8
 1回戦 7 0 日大東北 (5月23日 相馬光陽サッカー場)
 2回戦 2 1 相馬 (5月24日 相馬光陽サッカー場)
 準々決勝 1 1 帝京安積 (PK1 4)
 (5月25日 相馬光陽サッカー場) F1リーグ
 第3位 勝ち点23 (7勝5敗2分)
 第1節 3 1 湯本 (4月11日 十六沼公園サッカー場)
 第2節 4 1 福島工業 (4月18日 相馬光陽サッカー場)
 第3節 1 2 尚志2nd (4月25日 尚志高校)
 第4節 2 1 郡山 (4月29日 相馬光陽サッカー場)
 第5節 2 1 郡山商業 (5月2日 相馬光陽サッカー場)
 第6節 0 1 聖光学院 (6月13日 尚志高校)
 第7節 4 3 富岡 (6月27日 あづま総合運動公園)
 第8節 1 2 湯本 (7月4日 郡山市西部サッカー場)
 第9節 2 3 福島工業 (7月11日 いわきグリーンフィールド)
 第10節 2 4 尚志2nd (7月18日 いわきグリーンフィールド)
 第11節 3 3 郡山 (8月23日 相馬光陽サッカー場)

第12節 1 0 郡山商業 (8月29日 尚志高校)
 第13節 3 0 聖光学院 (9月5日 十六沼公園サッカー場)
 第14節 1 1 富岡 (9月12日 十六沼公園サッカー場) F3リーグ
 第3位 予選リーグB組
 第1節 1 0 福島明成 (4月26日 福島明成高校)
 第2節 2 1 福島西 (5月3日 福島東高校)
 第3節 3 0 橘 (6月7日 福島南高校)
 第4節 2 1 福島成蹊 (6月27日 福島南高校)
 第5節 3 0 福島南 (7月5日 福島東高校)
 順位決定リーグ戦
 第1試合 1 3 福島西 (7月30日 十六沼公園サッカー場)
 第2試合 3 1 福島商業 (7月31日 十六沼公園サッカー場)
 第3試合 0 4 福島工業2nd (8月6日 十六沼公園サッカー場)
 第94回全国高等学校サッカー選手権大会福島県大会
 1次大会 免除
 2次大会
 3回戦 8 0 喜多方桐桜 (10月17日 鳥見山陸上競技場)
 4回戦 1 0 福島工業 (10月18日 鳥見山陸上競技場)
 準々決勝 0 2 尚志 (10月24日 鳥見山陸上競技場)

卓球部

福島県高等学校体育大会県北地区大会
 男子 学校対抗

2回戦 福島東3 0 福島明成
 3回戦 福島東0 3 橘
 代表決定戦 福島東2 3 安達
 福島東3 0 二本松工業 (8位(県大会出場))
 個人シングルス 吉野高基 ベスト16
 渡邊有徳、小池郁哉 県大会出場
 女子 学校対抗
 1回戦 福島東3 1 福島明成
 2回戦 福島東0 3 橘
 代表決定戦 福島東2 3 福島
 個人ダブルス 本田・佐藤 県大会出場
 個人シングルス 本田紗希 県大会出場
 第61回福島県高等学校体育大会県大会
 男子 学校対抗
 1回戦 福島東2 3 川口
 個人シングルス 吉野高基 3回戦まで
 渡邊有徳 2回戦敗退
 小池郁哉 1回戦敗退
 女子 個人ダブルス 本田・佐藤 1回戦敗退
 個人シングルス 本田紗希 2回戦まで
 福島県総合体育大会県北地区大会
 男子 学校対抗
 2回戦 福島東3 1 保原
 3回戦 福島東0 3 橘

代表決定戦 福島東3 0 福島 (7位(県大会出場))
 個人シングルス 長谷部弘樹 県大会出場
 女子 学校対抗
 1回戦 福島東3 2 保原
 2回戦 福島東0 3 橘
 代表決定戦 福島東3 2 福島
 2回戦 福島東1 3 福島成蹊
 第68回福島県総合体育大会県大会
 男子 学校対抗
 1回戦 福島東0 3 福島高専
 個人シングルス 長谷部弘樹 1回戦敗退
 平成27年度全日本卓球選手権県北予選
 男子 一般男子ダブルス 小池・菊池組
 長谷部弘樹・星野智宏組 県大会出場
 ジュニアシングルス 小池郁哉 菊池遠也 県大会出場
 女子 一般女子ダブルス 長谷川・八巻彩組
 森・吉田組 県大会出場
 ジュニアシングルス 森 彩乃 ベスト16
 長谷川随華、吉田祥恵 県大会出場
 福島県高等学校新人体育大会 県北地区大会

男子 学校対抗
 2回戦 福島東2 3 福島成蹊
 個人ダブルス 遠藤峻介・齋藤迅人 ベスト8、県大会出場
 個人シングルス 菊池遠也 ベスト16、県大会出場
 女子 学校対抗
 1回戦 福島東3 1 福島明成
 2回戦 福島東0 3 安達
 代表決定戦 福島東3 1 本宮
 2回戦 福島東1 3 福島北
 個人ダブルス 森彩乃・吉田祥恵 ベスト8、県大会出場
 陸上競技部 福島県高等学校体育大会 入賞者のみ
 男子 800m 佐藤太一 5位
 5000m 小林海都 5位
 棒高跳 大枝智也 3位
 走幅跳 穴戸大夢 5位
 女子 棒高跳 佐々木優衣 6位
 混成競技 石田百合子 3位
 東北高校陸上競技大会
 男子 走幅跳 穴戸大夢 5位
 【全国大会出場権獲得】
 全国高等学校体育大会陸上競技 男子 走幅跳 穴戸大夢 予選敗退
 福島県総合体育大会陸上競技 男子

500m 小林海都 4位
 棒高跳 大枝智也 6位
 県高校新人陸上大会
 男子
 800m 佐藤太一 3位
 1500m 高橋信太郎 3位
 5000m 高橋開登 5位
 400mH 吉田匠見 4位
 棒高跳 大枝智也 2位
 東北高校新人陸上大会
 男子
 400mH 吉田匠見 5位
 県高校駅伝競走大会
 男子 第3位
 【東北大会出場権獲得】
 1区 小林海都
 2区 樋口拓哉
 3区 高橋開登
 4区 安部健太郎
 5区 田崎健太郎
 6区 菅野 慧
 7区 高橋信太郎
 バスケットボール部
 福島県高等学校体育大会県北地区大会
 男子
 予選トーナメント
 福島東208 25川俣
 福島東53 49福島商業
 1位トーナメント
 福島東66 104福島東稜
 福島東65 52福島
 女子
 予選トーナメント
 福島東66 43福島北
 福島東56 57福島成蹊
 県大会出場決定トーナメント
 福島東91 38福島明成
 福島東66 55安達
 福島県高校体育大会

1回戦 福島東107 64いわき光洋
 2回戦 福島東61 60若松商業
 準々決勝
 福島東77 82清陵情報
 女子
 1回戦 福島東65 67会津学鳳
 福島県総合体育大会県北地区大会
 男子
 1回戦 福島東106 44聖光学院
 2回戦 福島東90 34安達
 準決勝 福島東90 66福島成蹊
 決 勝 福島東73 66福島商業
 推薦校2校のため地区3位
 女子
 1回戦/福島東59 79安達
 福島県総合体育大会
 男子
 2回戦 福島東78 73若松商業
 準々決勝
 福島東67 93清陵情報
 福島県選抜高校バスケットボール選手権大会県北地区大会
 男子
 予選トーナメント
 2回戦 福島東48 107福島工業
 県大会出場決定トーナメント
 1回戦 福島東165 16川俣・梁川
 2回戦 福島東44 56福島
 県大会出場決定トーナメント
 敗者戦
 福島東93 69保原
 福島東105 36聖光学院
 女子
 予選リーグ
 福島東100 39福島明成
 福島東22 136福島西
 県大会出場決定トーナメント

1回戦 福島東90 42福島北
 2回戦 福島東45 50福島南
 敗者戦
 福島東66 81安達
 福島県男女総合バスケットボール選手権大会
 男子
 1回戦 福島東83 65FLAVA
 2回戦 福島東63 87喜多方高校
 福島県選抜高校バスケットボール選手権大会
 男子
 1回戦 福島東60 94日大東北
 柔道部
 福島県高等学校体育大会県北地区大会
 男子団体
 予選リーグ
 福島東4 1福島
 福島東4 1二本松工業
 福島東2 3福島工業
 1〜4位決定戦
 福島東0 5聖光学院
 福島東4 1保原 第3位
 男子個人
 90kg級第2位 佐藤浩太郎
 73kg級第3位 渡邊 雅也
 女子個人
 52kg級第1位 渡辺伶菜
 以上3名県大会出場
 福島県高等学校体育大会
 男子団体
 1回戦 不戦勝
 2回戦 福島東4 1相馬
 3回戦 福島東1 4平工業
 3回戦敗退
 男子個人
 90kg級 佐藤 1回戦敗退

73kg級 渡邊 1回戦敗退
 女子個人
 52kg級 渡辺 準々決勝敗退
 ベスト8
 福島県総合体育大会県北地区大会
 少年女子
 先鋒の部第1位 渡辺伶菜
 県大会出場
 福島県高等学校新人体育大会
 県北地区大会
 男子団体 第4位 県大会出場
 予選リーグ
 福島東4 0福島南
 福島東2 3保原
 福島東2 2福島工業
 福島東4 1福島明成
 福島東0 5聖光学院
 男子個人
 60kg級第1位 渡邊大賀
 66kg級第3位 阿部康平
 66kg級第5位 石田真清
 女子個人
 52kg級第1位 渡辺伶菜
 以上4名県大会出場
 剣道部
 福島県高等学校体育大会 県北地区大会
 男子団体
 5位予選突破(県大会出場権獲得)
 福島県高等学校体育大会
 男子団体
 1回戦敗退
 (対安積黎明高校 1 2)
 福島県高等学校新人体育大会
 県北地区大会
 男子団体
 5位予選突破(県大会出場権獲得)

福島県高等学校新人体育大会
 男子団体
 ベスト16(優勝した平工業高校に1 3で敗退)
 弓道部
 福島県春季弓道大会(4月18日:開成山弓道場)
 女子団体 優勝
 梅津 舞、菅野彩花、佐藤美涼、佐藤綾音、渡邊ひより、若梅紗織、佐藤瑠璃
 福島県高等学校体育大会県北地区大会(5月9〜10日:福島明成高校弓道場)
 男子団体 5位
 塩澤裕理、和智恭介、大槻尚矢、峯岸駿行、平石鳳誠、大津裕平、寺田侑矢
 男子個人
 4位 鈴木駿介
 (県大会:峯岸駿行、白坂唯斗)
 女子団体 優勝
 梅津 舞、菅野彩花、佐藤綾音、佐藤瑠璃、渡邊ひより、佐藤美涼、若梅紗織
 女子個人
 2位 佐藤美涼
 (県大会:菅野彩花、若梅紗織)
 福島県高等学校体育大会(5月30〜6月1日:福島明成高校弓道場)
 女子団体 優勝
 梅津 舞、菅野彩花、佐藤綾音、佐藤瑠璃、渡邊ひより、佐藤美涼、若梅紗織
 【インターハイ出場権獲得】
 福島県総体県北地区大会(6月13〜14日:福島明成高校弓道場)

男子団体
 県大会出場 福島東B
 羽田大倫、白坂唯斗、氏家涼太
 男子個人
 3位 白坂唯斗
 女子団体
 優勝 福島東C
 佐藤瑠璃、佐藤美涼、若梅紗織
 2位 福島東A
 菅野彩花、木村真彩、佐藤綾音
 県大会出場 福島東B
 芳見桜子、茂木七星、渡邊絢香
 女子個人
 優勝 佐藤綾音
 2位 渡邊ひより
 5位 佐藤美涼
 東北高校弓道大会(6月20、21日：若手県立武道館)
 女子団体 3位
 梅津 舞、菅野彩花、佐藤綾音、佐藤瑠璃、渡邊ひより、佐藤美涼、若梅紗織
 福島県総体県大会(7月3、5日：開成山弓道場)
 女子団体
 近の部の部 2位
 佐藤瑠璃、佐藤美涼、若梅紗織、梅津 舞
 遠の部の部 6位
 佐藤瑠璃、佐藤美涼、若梅紗織、梅津 舞
 総合 3位
 佐藤瑠璃、佐藤美涼、若梅紗織、梅津 舞
 女子個人
 近の部の部 6位 佐藤美涼
 全国高校弓道大会 インター

ハイ(8月6日、9日：奈良県吉野)
 女子団体 予選敗退
 梅津 舞、菅野彩花、佐藤綾音、渡邊ひより、佐藤美涼、若梅紗織、佐藤瑠璃
 福島県高等学校新人大会県北地区大会(9月19、20日：福島明成高校弓道場)
 男子団体 優勝
 峯岸駿行、小野颯人、寺田侑矢、羽田大倫、白坂唯斗
 氏家涼太、菅野裕太
 男子個人
 2位 小野颯人
 4位 寺田侑矢
 (県大会：峯岸駿行)
 女子団体 優勝
 佐藤綾音、木村真彩、芳見桜子、菅野彩花、渡邊絢香
 茂木七星、佐藤佑香
 女子個人
 3位 木村真彩
 6位 茂木七星
 (県大会：佐藤綾音、菅野彩花)
 福島県高等学校新人大会(10月17日、18日：会津総合体育館弓道場)
 男子団体 4位
 峯岸駿行、小野颯人、寺田侑矢、羽田大倫、白坂唯斗
 氏家涼太、菅野裕太
 女子個人
 2位 菅野彩花
 【全国選抜出場権獲得】
 全国高等学校選抜大会福島県大会(11月1日：南相馬市弓道場)
 男子団体 2位
 峯岸駿行、小野颯人、白坂

唯斗、寺田侑矢
 【東北選抜大会出場権獲得】
 バレーボール部
 福島県高等学校体育大会県北地区大会
 男子
 予選リーグ
 福島東2 0 福島北
 福島東2 0 二本松工
 福島東2 0 学法福島
 決勝リーグ
 福島東2 0 福島工
 福島東2 0 福島商
 11チーム中 第1位
 女子
 予選ブロック
 福島東0 2 成蹊
 福島東0 2 聖光学院
 9、12位決定リーグ
 福島東2 0 本宮
 福島東2 0 福島北
 福島東2 0 福島西
 15チーム中9位 県大会出場
 福島県高等学校体育大会
 男子
 1回戦 福島東2 0 安積黎明
 2回戦 福島東2 0 小野
 準々決勝
 福島東1 2 田村
 ベスト8
 女子
 1回戦 福島東2 1 日大東北
 3回戦 福島東0 2 会津学鳳
 福島県総合体育大会県北地区大会
 男子
 予選リーグ
 二本松工、福島明成、福島、学法福島の各校に2 0
 Aブロック1位

決勝リーグ
 福島工に2 1で勝ち、福島商業に0 2で負け。
 11チーム中 第2位
 女子
 予選ブロック
 福島東0 2 聖光
 福島東0 2 聖光学院
 予選敗退(9位)
 福島県総合体育大会
 男子
 1回戦 福島東2 0 安積黎明
 2回戦 福島東2 0 光南
 準々決勝
 福島東1 2 勿来工業
 ベスト8(春高バレー県予選大会出場権獲得)
 県北地区1年生大会
 男子
 二本松工、福島西高と合同チームで出場。
 1回戦 1 2 福島
 県北地区高等学校バレーボール秋季選手権大会
 男子
 予選リーグ
 福島北、学法福島の各校に2 0 Bブロック1位
 決勝リーグ
 福島東2 0 福島商業
 福島東2 1 福島工業
 10チーム中 第1位
 女子
 予選ブロック
 福島東1 2 福商
 福島東1 2 明成
 福島東2 0 聖母
 順位決定トーナメント
 福島東2 0 福西
 福島東2 0 福北
 14チーム中9位

バドミントン部
 福島県高等学校体育大会県北地区大会
 男子ダブルス
 齋藤・渡邊組 ベスト16 県大会出場
 男子シングルス
 齋藤優汰、佐藤 圭
 ベスト16 県大会出場
 女子団体 5位 県大会出場
 女子ダブルス
 遊佐・高橋組、大森・高橋組
 ベスト16 県大会出場
 女子シングルス
 遊佐公美 ベスト8
 大森千明 ベスト16
 安田成美17位 県大会出場
 福島県高等学校体育大会
 男子ダブルス
 齋藤・渡邊組 出場
 男子シングルス
 齋藤優汰、佐藤 圭 出場
 女子団体
 福島東3 0 郡山
 福島東0 3 ふたば未来富岡
 女子ダブルス
 遊佐・高橋組、大森・高橋組
 ベスト16 出場
 女子シングルス
 遊佐公美 ベスト8
 大森千明 ベスト16
 安田成美17位 出場
 福島県総合体育大会県北地区大会
 男子 個人戦出場
 女子ダブルス
 佐藤・安田組 ベスト16
 女子シングルス
 安田成美 18位
 県大会出場

福島県総合体育大会
女子ダブルス 佐藤・安田組 3 回戦進出
女子シングルス 安田成美 出場
福島県高等学校新人大会東北地区大会
男子団体 7 位 県大会出場
男子ダブルス 遠藤・佐藤組、鳴川・林田組 ベスト16 県大会出場
三村・廣野組 19 位 県大会出場
男子シングルス 遠藤希望、三村海都 ベスト16 県大会出場
女子団体 5 位 県大会出場
女子ダブルス 佐藤・菅野組 ベスト16 県大会出場
女子シングルス 五十嵐日向子、佐藤優奈 ベスト16 県大会出場
ハンドボール部
第66回福島県春季ハンドボール選手権大会（4月17日～19日）
2 回戦 44 30 福島北
3 回戦 37 20 安積黎明
準決勝 23 24 帝京安積
3 位決定戦
32 26 いわき総合
【最終順位】 3 位
平成27年度第61回福島県高等学校体育大会ハンドボール競技東北地区大会（5月16日～18日）
2 回戦 34 16 福島商業
準決勝 34 19 福島
決勝 40 28 福島工業
【最終順位】 優勝

平成27年度第61回福島県高等学校体育大会ハンドボール競技（5月29日～6月1日）
2 回戦 32 18 安積黎明
3 回戦 28 24 福島工業
準決勝 26 24 帝京安積
決勝 22 24 学法石川
【最終順位】 2 位
【東北大会出場権獲得】
平成27年度福島県総合体育大会ハンドボール競技（7月4日）
1 回戦 18 23 郡山
【最終順位】 ベスト16
第2回秋季地区ハンドボール競技
【最終順位】 優勝
ソフトボール部
第37回福島県高等学校男子春季選抜ソフトボール大会
1 回戦 福島東10 0 小高工
準決勝 福島東0 7 郡山北工（6回コールド）第3位
福島県高等学校体育大会東北地区大会
福島東17 2 福島（4回コールド）1 位
福島県高等学校体育大会予選リーグ
福島東7 0 相馬（5回コールド）
福島東0 1 郡山北工
福島東5 2 安積黎明
準決勝 福島東1 8 須賀川（6回コールド）第3位
福島県総合体育大会ソフトボール競技
1 回戦 福島東10 0 小高工
準決勝 福島東7 8 郡山北工

第3位
福島県高等学校新人体育大会ソフトボール競技
予選リーグ
福島東14 3 小高工（4回コールド）
福島東0 7 須賀川（5回コールド）
準決勝 福島東0 5 郡山北工 第3位
テニス部
東北ジュニアダブルステニス選手権大会
男子 18歳以下 優勝
小川雄大・遠藤悠太（他校）ペア
2 位 角掛未来・瓦吹拓人ペア
3 位 小山和輝・高橋和也ペア
3 位 玉手光次・佐藤洗希ペア
福島県春季ジュニアダブルス選手権大会東北地区大会
女子 18歳以下 2 位 佐藤千尋・大山千咲ペア
3 位 豊島紗月・大内藍子ペア
福島県春季ジュニアシングルス選手権大会東北地区大会
男子 18歳以下 優勝 角掛未来
2 位 瓦吹拓人
福島県春季ジュニアダブルス
テニス選手権大会

男子 18歳以下
小川雄大・遠藤悠太（他校）ペア
福島県春季ジュニアシングルス
ステニス選手権大会
男子 18歳以下 優勝 小川雄大
ベスト8 角掛未来
16歳以下 ベスト8 渡辺祐希
福島県高等学校体育大会東北地区大会
男子 学校対抗 優勝
シングルス 1 位 小川雄大
2 位 角掛未来
3 位 渡辺祐希
ダブルス 優勝
小川雄大・角掛未来ペア
2 位 渡辺祐希・瓦吹拓人ペア
3 位 小山和輝・高橋和也ペア
3 位 玉手光次・佐藤洗希ペア
女子 学校対抗 優勝
シングルス 2 位 佐藤千尋
3 位 大山千咲
ダブルス 2 位 佐藤千尋・大山千咲ペア
3 位 豊島紗月・大内藍子ペア
福島県高等学校体育大会
男子

学校対抗 2 位
シングルス 5 位 小川雄大
ダブルス ベスト8
渡辺祐希・瓦吹拓人ペア
東北高校テニス選手権大会
男子 学校対抗 2 回戦敗退
シングルス 小川雄大 3 回戦敗退
福島県総合体育大会東北地区大会
男子 部シングルス 優勝 瓦吹拓人
2 位 角掛未来
3 位 渡辺祐希
部ダブルス 優勝
角掛未来・渡辺祐希ペア
準優勝 瓦吹拓人・紺野竜加ペア
部シングルス 3 位 鈴木大翔
部ダブルス 3 位 鈴木大翔
3 位 鈴木大翔・児山諒河ペア
3 位 菅野佑斗・木村 楓ペア
女子 部シングルス 優勝 大山千咲
3 位 筒井美咲
5 位 菅野真里奈
部ダブルス 準優勝
菅野真里奈 筒井美咲ペア
3 位 大山千咲・大内藍子ペア
福島県総合体育大会

- 男子
 - 部ダブルス
 - 3位 菅野佑斗・木村 楓へア
 - 東北ジュニアシングルス二又選手権大会
 - 男子
 - 優勝 瓦吹拓人
 - 2位 角掛未来
 - 3位 渡辺祐希
 - 女子
 - 準優勝 大山千咲
 - 3位 筒井美咲
 - 福島県高等学校新人体育大会
 - 東北地区大会
 - 男子
 - 学校対抗 優勝
 - シングルス
 - 優勝 瓦吹拓人
 - 2位 渡辺祐希
 - 3位 角掛未来
 - 女子
 - 優勝
 - シングルス
 - 3位 大内藍子
 - 3位 大山千咲
 - 5位 菅野真里奈
 - 6位 筒井美咲
 - 9位 佐藤かさり
 - 福島県高校新人テニス選手権大会
 - 男子
 - 学校対抗 2位
 - 女子
 - 団体 3位
 - 東北選抜高等学校テニス選手権大会
 - 男子
 - 学校対抗
 - ベスト4
 - フィードインコンソレイショ

- 水泳部
 - 男子
 - 11回戦敗退
 - 福島県高等学校体育大会東北地区予選
 - 男子総合3位
 - 50m自由形4位 瀬田川隼平
 - 100m自由形4位 瀬田川隼平
 - 100m背泳ぎ4位 横山天馬
 - 200m背泳ぎ4位 小林史哉
 - 200m背泳ぎ5位 横山天馬
 - 100m平泳ぎ5位 上野智弘
 - 100m平泳ぎ6位 佐藤航平
 - 200m平泳ぎ4位 上野智弘
 - 200m平泳ぎ6位 佐藤航平
 - 400mリレー6位 佐藤航平
 - 400mメドレーリレー4位 上野・六戸・鈴木・瀬田川
 - 小林・上野・橋・瀬田川
 - 女子総合7位
 - 50m自由形3位 岩崎真由
 - 100m自由形4位 岩崎真由
 - 400m自由形4位 六戸朱里
 - 800m自由形3位 六戸朱里
 - 第61回福島県高等学校体育大会水泳競技大会
 - 女子
 - 決勝
 - 800m自由形8位 六戸朱里
 - 第68回福島県総合体育大会水泳競技出場
 - 第50回福島県高等学校新人体育大会水泳競技大会出場
 - 山岳部
 - 福島県高等学校体育大会(会津駒ヶ岳)
 - 優秀パーティー：福島東Aパーティー、福島東Bパーティー
 - 最優秀校【全国大会出場校】
 - 全国高等学校総合体育大会登山大会(滋賀インターハイ)
 - 出場 43位

- 吹奏楽部
 - 吹奏楽習発表会参加(6月)
 - 福島県文化センター(7月)
 - 吹奏楽コンクール東北支部大会(7月)
 - 吹奏楽コンクール県大会(8月)
 - 郡山市民文化センター(8月)
 - 吹奏楽コンクール県大会(平成27年3月)
 - 銅賞
- 合唱部
 - 第6回声楽アンサンブルコンテスト全国大会高等学校部門(平成27年3月)
 - 銅賞
 - 東北地区音楽祭参加(5月)
 - 福島市音楽堂
 - ソフィア少年合唱団演奏会賛助出演(6月)
 - 福島市音楽堂
 - 県音楽学習発表会参加(6月)
 - 福島市音楽堂
 - 第13回定期演奏会開催(7月)
 - 福島市音楽堂
 - 福島県合唱コンクール(8月)
 - 福島県文化センター
 - 金賞
 - 県大会出場
 - 全日本合唱コンクール東北支部大会(9月)
 - 秋田県民会館
 - 金賞【全国大会出場】
 - 全日本合唱コンクール全国大会
- ダンス部
 - 第8回日本高校ダンス部選手権新人戦 東日本大会 参加
 - 福島県高校ダンス部第9回発表会
 - 第46回福島わらじまつりダンスコンクソーだないと剛脚賞
- 福島県新人登山大会出場(磐梯山)

- 科学部
 - 平成27年度生徒理科研究発表会東北地区大会
 - 「森林環境中に自生する植物を用いた内生菌分離」渡辺英彦(2年)
 - 「摺上川の水質調査報告」岡崎勇太郎、五十嵐匠馬(2年)
 - 白田晃輝(1年)
- 書道部
 - 第60回福島県たなばた展個人賞
 - 奨励賞 1年 紺野心清
 - 銀河賞 1年 田崎健太郎
 - 銀河賞 1年 赤井那緒子
 - 団体賞 学校賞
 - 第24回国際高校生選抜書展(書の甲子園)
 - 入選 1年 紺野心清
- 美術部
 - 福島県総合美術展覧会(県展)
 - 青少年美術奨励賞・県教育長賞 安藤蘭奈
 - 入選 多田有季恵
 - 入選 横山愛実
 - 西会津国際芸術村公募展 入選 八巻芽末
 - 福島県美術協会展(美協展) 高校生優賞 山下 葵
 - 高校生優賞 三浦柚香
 - 入選 熊田敏秀
- 放送委員会
 - NHK杯高校放送コンテスト
 - 東北相双地区大会
 - アナウンス部門
 - 橋本 彩 優秀1席
 - テレビドキュメント
 - 最優秀
 - 創作ラジオドラマ

最優秀
以上県大会進出
NHK杯高校放送コンテスト
県大会
アナウンス部門
橋本 彩 優秀3席
【全国大会出場】
テレビドキュメント部門
最優秀 【全国大会出場】
創作ラジオドラマ部門
優秀 【全国大会出場】
NHK杯高校放送コンテスト
全国大会
全国高等学校総合文化祭放送部門(滋賀総文)
アナウンス部門
橋本 彩

平成27年度(34期生)
部活動を終えて

生徒会

「生徒会の役割とは何か?」
この質問は、私が生徒会長となつた際に校長先生から問われたものである。当時の私はうまく答えることができなかったが任期を終えて行き着いた答えは「ボランティア精神を持って尽くす事」だ。今年度は新しい試みとして、生徒会新聞の発行、週に一度の集会、体育館と昇降口の清掃、不審者対策として見回りを行った。郊外でも福島駅前清掃、募金の呼びかけ、子供と遊

ぶボランティアなど自主的に活動の幅を広げてきた。生徒会の仕事は裏で働く事が多いためあまり認知されていないかも知れないが、学校のため、地域のために力を尽くしているのである。自分たちで今起きている問題を分析し、解決すべき課題を把握して実行していくという経験は、文化祭やスポーツ大会でも役に立った。先輩と一緒に学んでいった中でボランティアの心をこれからも学校生活で活かしていきたい。

(西野剛生)

弓道部

私達東高三十四期弓道部員はこれまでの約三年間で五人の先生方や沢山の先輩方にお世話になってきました。

入部したてで何もわからない私達に弓道の技術はもちろん、礼儀作法、弓道の奥深さ、楽しさを一から教えて頂き、今があります。

現代弓道は対人競技ではなく、対的競技であり、自分の精神との戦いであると言えます。この点において最も難しく感動的なのではないかと私は考えます。その他にも、基本に忠実である事、仲間と共に協力し励まし合う事、道具を大切にすること、周りの環境に感謝することの大切さ、

人間関係や部員をまとめる事の難しさを学ぶ事ができ、新たな成長をする事が出来ました。部員全員が最後まで弓道部として全力を尽くす事が出来た事を誇りに思います。(大槻尚矢)

陸上競技部

僕が陸上部で学んだことはたくさんありましたが、その中でも強く印象に残っているのは仲間の存在の大きさと毎日一つ目標を決めて部活に取り組むことでした。陸上はほとんど個人競技ですが、練習で自分では悪いかわからない所があっても仲間がいれば自分の考えとは違う部分を得ることができ、考える幅が広がっていきます。また、仲間と練習することにより競争力が上がりお互いを刺激し合い切磋琢磨できることを学びました。もう一つは、毎日一つだけでも目標を決めてから練習すると、その日のやる気が大きくなることです。何を意識するか決めずにただ練習することは意味がなく、次につなげるために一つ一つの動きを意識して練習することの大切さも学びました。

これらの学んだことをこれらの人生で生かしていきたい。

(六戸大夢)

剣道部

部長になって私が学んだこと数えればきりが無いが、成長という面では主に二つある。一つは責任感を持つこと。

私は今まで、長いものには巻かれようとする人間だった。他人に従ってれば、楽で安心だったから。だが部長になってからは違った。人任せにすることは許されず、私についてきてくれる部員のために自分自身で決定することが必要になった。責任感の無さを幾度も叱られ反省していくにつれ、自然と自分の行動に責任が持てるようになったのだ。

二つ目は、人に感謝すること。先生に親、仲間や応援してくれた人など、支えてくれる人達がいなければ私は部長を続けられなかっただろう。そんな人達への感謝を忘れない心が私が学んだ大事なことだ。

これらの大切なものを、将来の糧にして私は生きていく。

(大和田優輝)

水泳部

二〇一五年度は東高水泳部にとって重要な節目となった。震災以降数回の修理を経てようやく本格的に学校のプールが使える

ようになったのである。水泳部の当為である泳ぐことと条件が満たされたという点で今年は大きな転機となった。

学校のプールが使えるようになったことは、ありきたりな表現ではあるが、私たち水泳部に連帯感を抱かせ、絆で結びつけたと言えよう。

しかし、私がプールの使用に付随したことで強調したいことは、別にある。それは、私たちに東高で部活をしているという一種の感動に似た例えのような感慨深い思いを抱かせたことである。諄々と感じるかもしれないが、部活が盛んな東高において部活がどれほどの位置を占めているかは周知のことだろう。今年度は、一段と部活をすることとそれ自体に喜びが感じられた。

(瀬田川隼平)

ハンドボール部

私たちハンドボール部は、夏の県大会準優勝で東北大会へ出場したことが一番の思い出です。前年はベスト8で敗れ、自分たちの代では絶対に負けなれないと意気込み部活動を一生懸命取り組ましました。県大会の決勝は学石が全校応援で体育館が埋まりました。しかし、東の応援団とブラスバンドが来てくださり、学

石に負けない応援をしてくれてとても心強く、ここまで一生懸命やってきて良かったなと思いました。私たちは一つ上の舞台で試合をし、勝つことの楽しさ、決勝での負けの悔しさを経験しました。これから受験に向けてつらいことがたくさんあると思います。その時は、この負けを胸に次は勝てるよう頑張っていきたいと思えます。そして東北大会に行けたのはチームのみんなや保護者や監督、コーチのおかげです。感謝の気持ちを忘れません。一生の思い出です。ありがとうございました。(野地海斗)

男子バレーボール部

一年半の部活動を通し、多くのことを学びました。その中でも特に忍耐力と感謝の気持ちというものは私の人生をより豊かにしてくれると思っています。

練習の中には地味でつらいトレーニングもありました。初めは、つらいのでトレーニングは好きではありませんでしたが、大会で勝ちたいという思いが強くなるにつれてそのトレーニングにも耐え、さらに追い込めるようになりました。この中で養った忍耐力は今の受験勉強にも活かされています。

また、私たちの部活にはOB

の方や外部の方がたくさん指導に来てくれました。その方々は、大学が終ってすぐに来てくれたり、仕事を早く終わらせてきてくれる人がいました。今思うととてもありがたいことだったのだと思います。この感謝の気持ちを忘れず自分も他人のため何かできる人間になりたいと思いました。(後藤真太郎)

女子バレーボール部

入部したばかりの頃、私は福島東高校の女子バレー部は、「自分たちで考え、試行錯誤して自分たちのバレーを作る。チームだなどという印象を受けました。入部して時間が経つてからもその印象は変わらず、先輩方には自分たちのバレーをすることの難しさや大切さを学びました。先輩方が引退し、自分たちの代になってから、なかなか自分たちのバレーのスタイルが確立せず、練習では何度も何度も失敗しました。怪我人も多く、試合で自分たちの力を充分に出せないこともありました。今振り返ると、小学生の頃からやっているバレーボールで一番苦しい日々を、私は高校で過ごしたかもしれません。それでもみんな諦めず、最後まで自分たちのバレーを追求した結果、インター

ハイの県予選では、自分たちのバレーを出しきることができました。この経験は、今後の人生の糧になるような価値のある経験になったのではないかと思います。(古閑菜実)

卓球部

中学生の時に始めた卓球という競技。私はそこから沢山のことを学びました。まずは集中力。卓球という競技はその集中力によって勝敗が大きく左右されます。現役時代に身に付けたこの力は勉強する時といった実生活においても大いに役立っています。

そして仲間との出会い。世代交代した頃の団体戦の結合はとても悲惨なものでしたが、団結して互いに切磋琢磨し日々の練習に取り組み、県大会出場という切符を手にすることができました。私は部長でしたが、終始顧問の先生や部員達に迷惑をかけてばかりでした。そんな時に支えてくれたのも仲間という存在であり、かけがえのないものとなってしまいました。

部活動を通して学んだこれらのことは、今後の人生においての苦しい時や辛い時の励みにしていこうと思います。(東海林拓実)

ソフトボール部

自分にとって高校生活は、部活動が全てでした。顧問の佐藤信治先生や高梨卓也先生からは様々な事を教えていただき、部長としての在り方、チームへの責任感、さらには人間性も含めて大きく成長することができたと思います。特に信治先生からは、「何か一つのことには本気になれ」とよく言われ自分はその言葉に影響を受け、日々努力しました。辛く苦しい時もありましたが、自分を支えてくれたチームメイトやマネージャーの存在があつたからこそ乗り越えられることができました。仲間の大切さを改めて考えさせられました。ソフトボール部で活動したことは自分の誇りであり、このような素晴らしい部活動に入ることができて良かったです。

先生方や先輩方、そして後輩の皆に改めて感謝し、そしてこれからもソフトボールを続けながら日々成長していきたいと思えます。(遠藤聡平)

柔道部

私は二年半の部活動において、柔道という競技を通じて数えきれないほどのものを学ぶことが出来ました。その中でも特に、

ご指導してくださる方や柔道そのものに対する敬意、最後までやりきる忍耐力、よりよい人間関係の築き方、などが私にとって大きなものでした。これらは普通に生活していれば身に付くように感じられるものばかりですが、同年代にない教室では難しいものだと思います。しかし、柔道を通し、東高の先生や先輩方だけでなく他校の先生や先輩とも関わること、自然と得ることが出来ました。

この、柔道を通して得られたものは私にとってかけがえのないものであり、社会生活においても重要なものであると思うので、これからも大切にしていきたい。(渡辺雅也)

男子バドミントン部

部活動を通して、仲間と切磋琢磨すること、協力すること、目標に向かって努力することなど、様々なことを学ぶことができました。

今年の三年生の部員のほとんどは高校入学後から始めました。初めのうちは、基礎体力向上のために走りこみ、素振りをし、様々な技術を習得しました。素人集団の私達に対して、先生方はもちろん、先輩・OBの方々にも

丁寧に分かりやすいご指導をいただきました。

私達の代になり、高体連県大会出場を目標に、一生懸命に練習に取り組みました。毎日、練習内容を黒板に書き出し、部員同士で意見を出し合い、工夫しました。このおかげで、練習内容が濃くなり、技術が向上したのだと思います。

残念ながら、県大会には出場できませんでしたが、くやしいと思う反面、次こそはやってやるという前向きな気持ちになりました。

このような経験を通して、今の自分があるのだと思います。今後、この気持ちを大切に、周囲の人々と協力し合い、何事にも挑戦していこうと思います。(佐藤隼人)

女子バドミントン部

私が高校三年間のバドミントン生活で得られたことはどれも大きいものでした。

まず仲間の大切さです。バドミントンは個人競技ですが、仲間がいなくては練習すらできません。それから応援もなく一人で戦うことになりません。厳しい練習を共に乗り越え、互いを励まし合う仲間がいることは幸せなことです。

次に最後まで決して諦めないことです。どんなに点差が開いても、このラリーを取ったら自分たちに流れが来る、巻き返すことができる自分と言い聞かせながら最後まで戦い抜きました。このことは今、受験勉強が苦しくても決して投げ出さないことへの力となっていると思います。

部活動での経験は全て今の生活に結びついていきます。そしてこのことは今後も変わらないと思います。部活動を通して得られた大切な物をこれからも大切にしていきます。

(高橋奈葉美)

男子テニス部

僕達、男子テニス部は、三月に全国選抜高校テニス大会に出場することができました。部員全員が一つの目標に向かい、互いに切磋琢磨することで技術面も上達し、そしてチーム内の団結力を高めることができたからだと思います。目標を想像できるといふことは、実現できることだといふことがわかりました。苦しい練習から逃げだしたくないこともありませんが、諦めずに、目標に向かい、一生懸命に取り組むことの大切さを学ぶことができました。

このような経験ができたのはテニス部を指導してくださった朝倉倉先生、練習してくださったOBの先輩方、テニス部のチームメイト、親、支えてくださった皆さんの方々がいたからだと思います。本当に感謝しています。ありがとうございます。

(小川雄大)

女子テニス部

私はテニス部に入部して約二年半ほとんど休まず部活動に参加しました。風が強い日や雨の日も行きたくない気持ちもありましたが、同じ目標を持つ部活動のメンバーの頑張っている姿を見て、毎日刺激をもらうと同時に、みんなに負けたくないという気持ちが生まれ、最後まで頑張ることができました。私はこの経験から一人ではできなかったことも仲間と一緒にならできたことがあると学びました。また、私は最後の大会で怪我をしてしまい、ほとんどボールが打てない状態になってしまいました。それでも最後まで試合をやり遂げ諦めずにプレーできたことで、悔いなく引退することができました。この経験から私は最後まで諦めないことの大切さを学び

ました。部活動以外のことでこの経験は役に立っていると引退した今実感しています。私はこれからさまざまなことに挑戦し諦めずに取り組んでいきたいです。

(佐藤千尋)

サッカー部

サッカー部を通じ精神的に鍛えられ、人間的にも成長できた。毎日全国出場のため部活に打ち込み、かつ勉強も意識を高く持ち続け、過ごしてきた。また、他の部活動が引退するなか続けてきたので覚悟も尋常ではなかった。結果的に負けてしまったが、終えてみては、たくさんの支えでサッカーを続けることができ感謝の気持ちでいっぱいであった。自分達のために先生方や保護者達が行動なさっていることが有難く、期待にこたえられなかったことは残念だ。だが、この部活動で厳しい環境下で必死に喰らいついてきた忍耐力とやり切ったところに見える世界は格別であり、どの部活動より大きなものを得たと思ふ。清文先生がおっしゃったように現時点での部活動で何を得たかというのは漠然としていてわからないが、これからの人生で福島東サッカー部での日々が教えてくれるだろうと思う。

(齋藤直人)

野球部

三年間の部活動を通して技術、礼儀は勿論の事、様々な事を学び得ることができました。その中でも今後の人生にとって一生の財産となるのが二点あります。

一つ目は「勝負師としての心構え」です。これは、監督である鈴木利栄先生の教えです。練習や日常生活からしっかりと心構えを持った者が、いざという時に真の力を発揮できる。球だけでなく今後の人生の中にも必ず生きてくる事だと思っています。

二つ目は、「真の仲間」です。我々三十四期野球部二十八名は、

入部当初から誰一人欠けることなく最後まで戦い抜きました。甲子園出場という共有の目標があったので、多くの試練や困難も励ましあいながら乗り越えることができました。時には意見が合わず衝突することもありますが、本気で向き合い本音で語り合える真の仲間となることができました。

このかけがえのない仲間との絆をこれからも大切にし、人生の勝負師となれるよう東高で学んだことを活かして頑張ってい

男子バスケットボール部

朝の掃除、ここから一日が始まりました。仕事人と呼ばれる先輩のチェックは厳しく、全員が毎日かかさず行いました。礼儀や生活など学び、部活動においての技術面や体力面以外のことでも学びました。

自分達の代になり、立場や責任感が増すと共に期待が募りました。しかし、僕はケガをしてしまい四ヶ月間コートに立つことができませんでした。その間に新人戦などがあり、試合をこなすごとに、一人一人が成長しているということが見てとれ喜ばしく、悔しさと申し訳なさがありました。

復帰後、二ヶ月間は格段にチーム力が上がり、最高に楽しい時間を過ごしました。そして県大会になり、一戦一戦全力で戦いましたがベスト8という結果でした。試合中にベンチ、応援、関係者の方々の応援を受け全員で戦える東高校の伝統を感じ、誇りと自信を持ちながら最高の三年間を過ごすことができました。

(佐藤雄介)

女子バスケットボール部

部活動を引退してから数ヶ月

が経ち今でも無性にバスケットをやりたいたいと思うことがあります。私はバスケットが好きだということを変更して実感しました。

高校での部活動は短く感じられとても充実したものでした。毎日同じ時間に練習を繰り返しながら仲間と共に励まし合いながら頑張ってきた日々は一つ一つが思い出です。

三年間部活動をやり学んだことは多くあります。目標に向かって努力し続けること、どんなに辛いことがあっても諦めないこと、仲間や先生を信じて戦うことなどここでは言いきれないほど多いです。今までたくさんの方を教えてくださり応援してくださった先生方や先輩方に感謝しています。たくさんの方の協力を得てバスケットができたことが幸せだと思いました。受験がせまってきて勉強でも辛いときがありますが部活動でも辛い事を乗り越えてきたように諦めず努力し続けたいと思います。

山岳部

今年度、山岳部の部長を務めさせて頂いた菱沼と申します。

この山岳部という部活は今までに経験したことのない初めてのことばかりの部活動であった

ため、その分学んだことや教えられたことがたくさんあったと思います。その中でもこの部活にとってはチームワークが大事だと教えられました。きれいに素早くテントを張るにしても、料理を上手に作るにしても、計画書作りにしてもパーテイメン

バーもしくは部員全員が協力しなければなりません。それらすべてを一人でやる人もいると思

いますが部活動では単独での登山は基本的にはしないので、やはりチームメイトの存在とチームワークはとても大事でした。これは部活動内だけでなく、他の活動でも同じことだと思

います。このような貴重な経験ができたのも先生や先輩方のおかげです。今後も山岳部のさらなる発展を期待しています。

ダンス部

(菱沼慎吾)

私達は七月三十日に九代目のダンス部としての発表会を無事に行うことができました。顧問の先生を始め、多くの皆さんのサポートのおかげです。本当にありがとうございます。

私達は各地のイベントやボランティア活動などを通して、様々な場所でダンスをしてきました。

その度に見てくださっている皆さんが楽しそうに、また興奮しているのを見た時、ダンスという文化が少しずつ受け入れられていることを実感しました。またそれと同時に、大人数で何かを成し遂げることの難しさも痛

感しました。メンバーに指示したり、協力してもらったり、もちろん僕一人でそれら全てを行

った訳ではありませんが、考えたようにできず、苦しい時期もありました。それでも周りの支えのおかげで最後までやりきる事ができました。「有意義」な時間を過ごすことができたと思

合唱部

(齋藤理央)

私たち合唱部は今年、長年の目標であった全国大会に出場することができました。結果は銀賞、部員一同、満足する演奏をすることができたと思

っています。今年度は新人部員が少なく、不安な歩み出しでありましたが、吹奏楽部から助っ人で参加して

もらったり、人数に拘らない演奏を目指し、次第に少なさは気にしなくなるようになりました。また、県大会直前に先生から「音程の追求が甘い」とお叱りの言葉があつて以来、精一杯練

習に臨むようになり段々と良くなっているのが実感できました。初めての事が多く、様々な方々の支援を受けている事を改めて実感しました。感謝の気持ちを忘れないで日々活動していきたいと思

います。先生方、在校生、卒業生の皆様、そして創部以来の先輩方この場を借りて、感謝申し上げます。(阿部剛士)

科学部

科学部では、物理と化学と生物と地学の中からテーマを決めて研究することが出来ます。そのため、研究内容が多岐にわた

り、かつ専門的な研究を行う個人や班が存在します。このような部員たちと関わることで、自分の専門外の分野について触れる機会が増え、多くのことを学ぶことが出来ました。こうして得られた知識のおかげで生物の授業であっても「物理」や「化学」などを通して、生物について幅広く、そしてより深く考察し、生命現象について詳しく学ぶことが出来ました。

また、大会を通して得られたこともたくさんあります。その一つが人前で発表するということです。勿論、発表のためには研究内容を詳しく知った上で臨むのですが、それでも多くの方

から意見やご指摘を頂きます。その時に柔軟に、かつ道筋を立てて返答する必要があります。このような今後の社会生活について生かせることも学べました。(大槻恒介)

演劇部

(大槻恒介)

私たち三十四期が演劇部として最後に上演した脚本は「鷹作マクベス」でした。この脚本は練習していく毎に自分の中の演劇に対する考え方が変わっていき

くよつてもっと前に上演したかった、と後悔したことがあります。しかし実際舞台上で演じ終えたとき、なるほど、この脚本は今、このメンバーでしか出来ないものだったんだなと気づか

されたのです。人数とかの問題ではなく、各部員の個性や関係性が二度と同じようには出来ない演劇を造っていました。そして、このタイミングにあの脚本を読んだからこそ、今までの考え方に影響を与えられたのだという

吹奏楽部

(橋本 彩)

の自分自身の変化を大切にしていきたいと思います。

みなさんこんにちは。三十四

期吹奏楽部長のオールドモンテのこと樵春伽です。オールドモンテとは部活内で付いたあだ名です。東高吹奏楽部では先輩が後輩にあだ名をつけるのが伝統でそれによって先輩・後輩や同級生の仲を深めたり集団としての意識を高めることができます。

私が部活を通して学んだことはたくさんありますが、その中から最も強く感じたことお話し

ます。それは音楽はみんなでつくるものだという事です。良い音楽をつくるためには個人個人でうまくなければいけません。みんなで助け合って、自分と相手の音楽を共有し全体でうまくなることが重要であると感じました。

これは東高吹奏楽部だからこそ感じられたことだと思います。ここで学んだことや感じたことをこれからも大切にしたいと思います。(樵 春伽)

写真部

私は部活動を通して大きく二

つのことを学びました。

一つ目は写真の奥深さについてです。普段の自由な活動の中で、文化祭や写真展での展示に向けて好きなものを撮影しながら感受性を養い、また、年に一度の他校と合同での講習会では大内宿や松島などの美しい景色を撮影しつつ、カメラの設定や構図の決め方についてなどの技術を学び、写真の奥深さと楽しさを学びました。

二つ目は、部長としての責任です。私たちは普段は部員全員が集まった活動がありませんでしたので、部長としての仕事は少なかつたのですが、少なかつたからこそ一つ一つの仕事に責任感を持ち真剣に取り組むことを強く意識できました。

この高校三年間での貴重な経験を、今後の人生に生かしていきたいと思っています。(菅野翔太)

英語部

私は部活を通して文化について考えることが多くありました。活動は主にカリーン先生との会話でした。その中で多くの違いがあることを知りました。例えば、日本人の多くは自分の血液型を知り占いなどにも使うけれども、他国では血液型を知らない人が多く、占いに使うような

ことしないそうです。ちょっとしたことで実際に体験したことと異文化について考えることがありました。

また、教えてもらうだけでなく日本の文化を教えるという活動もしました。しかし、活動してみると自分が日本の文化についてあまり知らないことに気づきました。当然知っていると思っていたためショックでもあり、異文化の理解に加えて自国の文化の理解も必要だと感じました。

これらの活動は私にとって大きな経験となりました。国際社会の広がる中でこの経験を活かしたいです。(阿部紗梨菜)

放送委員会

放送委員って何してるの、と聞かれることが多い、私たち放送委員会は、のんきそうなイメージがある一方で活動はシビアな面があります。番組や原稿を作るためのネタ探し、構成、編集が主にそのシビアな面です。ネタ探しは、まだ良心だけでも探せそうですが、構成や編集となつたら容赦がありません。見せ所はここぞとばかりに観せて、秒単位で必要な所を切っていくような作業は、きれい事だけでは出来ません。ここまでする理由は、多くの人に観てほしいから

です。自分たちの伝えたい事を多くの人に知ってもらいたいからです。そうするには、「人が観てくれる番組」を作らなければなりません。そうして作った番組で誰かの心に何か響くものを伝えられたら、と思うことも嬉しくなります。その伝わることの喜びを糧として皆で作品を作ったことは楽しいだけではない、貴重な経験でした。

私は応援委員として活動して学んだことは数えきれません。その中でも大きく二つにしばって書きたいと思います。一つは応援の楽しさです。試合の負けは応援団・プラスバンドの責任、という先生や先輩方の言葉を常に意識し、毎試合に全力をかけた。コンクールなどはありませんが少しでも選手の力になれるように演奏・演舞などに気持ちを込め、勝利したときの喜びはとても大きく次の試合の糧にもなりました。

二つ目は、一から考えて作り出す力です。応援に定型や正解などありません。東らしい応援、たくさんの人を味方につける応援というのを模索し、アイデアを出し合いました。その中で、

応援委員会

(橋本 彩)

大切な伝統を守りつつ新しく進化する難しさ、自分の意見をはっきり伝える力を学びました。二年半の中で学んだこと、身につけた多くのことはこれから先でも大切なことばかりなので忘れずにいたいです。(花井友理子)

平成27年度 教育実習生 (同窓生のみ)

氏名	実習教科	期生	氏名	実習教科	期生
松浦 泰祐	化学	30期	山内 一正	保健体育	29期
佐藤 駿斗	化学	30期	市川 草士	保健体育	30期
梅原 里佳	公民	30期	市川 沙幸	地歴	30期
阿部 航平	保健体育	31期	佐藤 直道	物理	30期
高橋 かな美	地歴(日本史)	30期	室井 麗	英語	29期
野地 絃太	地歴(日本史)	29期	森藤 章	保健体育	30期
佐藤 諄季	保健体育	30期	穴戸 勇二	数学	29期
齋藤 涼	保健体育	30期			

福島東高校の卒業生から学ぶ

東高生に伝えたいこと

18歳選挙権

高校生は大人or子ども？

福島民友新聞社販売部長

渡辺 順(五期生)



「選挙で投票したい!」。あまりの積極的な返答に正直驚きました。十月十四日、約三十年ぶりに母校・福島東の教室に入りました。一年生を対象とした「卒業生から学ぶ」という学校行事に講師として招かれ、聴講してくれた生徒たちに質問した結果、ほぼ全員の意向。十八歳以上の選挙権は来年夏の参院選挙から適用される見込みです。どんな準備が必要でしょうか? この機会に友人、家族と一緒に少し考えてみてはいかがでしょう。

これまでの選挙制度では選挙権は二十歳以上ですから、大人の権利、証しのように感じていたことでしょう。私は大学生のときに東京で権利を取得しまし

たが、恥ずかしいことに学生時代に投票へ行った記憶はありません。まったく政治に関心がなかったのでしょうか。

それに比べ、先日の東高一年生たちはなんて優秀なのでしょう。今回の寄稿のテーマに「選挙」を選んだのは積極的な生徒さんたちに少しでもお役に立てればとの思いからです。

選挙投票の準備を語る前に国で検討している気がかりな事案があるので、そのことも少し触れさせていただきます。どちらかと言えば高校生にとってはこちらのほうが関心が高いかもしれませんが、「十八歳からの飲酒、喫煙」。これってどうなの? 生徒のみなさんどう思いますか? 個人的な意見になります

が、私は「なし」! 絶対に「なし」と言い切ります。現役の高校生が家に帰ってビール飲みながら試験、受験勉強?? 食後にタバコを一服?? 子を持つ親から賛同を得られるだろうか、ないでしょう。国の機関、政治家がこんな愚策を議論するとは呆れるばかりです。

さて本題です。選挙で大切なのはズバリ見極める力。損か得かではなく、功か罪かを判断する力だと思えます。大人だから、子どもだからということは関係なく、良いか悪いかものの道理をわきまえることができる知識を身に付け、そして経験を重ねていくことが大切だと思います。街中を歩いていると自転車に乗った高校生が警察官に呼び止められている風景を目にすることがあります。原因の一つは二人乗り。もう一つは占有離脱物横領罪。簡単に言えば自転車ドロボーです。路上に乗り捨てられていて誰の自転車かが判明しない、カギも掛かってないから、自分の物ではないけどつい乗ってしまった。たかがと思うかもしれませんが、それは犯罪です! 犯罪を犯す人間にまともな選択ができるでしょうか。

また、高校生だから、知らないから許される。そんなに世の中は甘くありません。先日の講演の機会に生徒たちにこんな質問をしました。自衛隊の派遣などを盛り込んだ「安全保障関連法」に賛成か反対か。七十人の意見は分かれましたが、その中で反対の理由は「戦争になるかもしれないから」、「デモで大勢の人が反対していたから」。確かにいるんな考え方があるのもいいと思います。しかし、この

情報だけで賛成、反対を決めるにはまだまだ情報、知識が不足しています。映像やテレビのワイドショーコメントだけで判断することは非常に危険です。選挙投票前に自分の考えを持つ手段としては複数の新聞を読み比べることを勧めます。さらに新聞の一般記事だけでなく、「社説」「読者投稿欄」も読んでほしい。色々な人の意見を聞くことで、考え方や物の見方が変わります。受験も大切ですが、社会に関心を持つ大人になってくれることを願います。成長の過程に大切なものは「創造力」と「解決力」。後輩の皆さんにはこの二つの力を常に意識した高校生活をおくって欲しいと思います。



転任者の言葉

二度目の東高

教頭 森 和茂

今年四月に安積高校より赴任しました。東高に勤めるのは七年ぶりになります。前回は、十二年期の担任をしてから教務部そしてソフトボール部の顧問として七年間勤務しました。久しぶりの東高は、二期工事の最中で校舎が迷路のようになっていて少し焦りました。また、いるいるなものが自分の記憶とは違っていました。今は慣れて、校歌に謳われている「顔を上げてわれら開かれた道を行く」の通り「文武両道」を目指し日々実践している生徒諸君とそれを支えている先生方の努力に、日々福島東の素晴らしさを感じています。

前回勤務の七年間の思い出はたくさんありますが、一番の思い出はサッカー選手権大会で全国ベスト8になった時に一緒に応援できたことです。準々決勝で桐蔭学園と戦いPK戦で敗れて国立(準決勝)には行けなかったのですが、素晴らしい戦いぶりでした。そのときの中心選手がフォワードの萬代宏樹選手(現モンテディオ山形)でした。彼がベガルタ仙台に内定し

平成27年度 転出者

職名	氏名	転出先
教頭	伊豆 幸男	船引高校 (校長)
事務長	渡部 雄二	会津若松建設事務所
教諭	木村 忍	福島北高校
教諭	中村 達哉	県北教育事務所
教諭	柳橋 幸裕	高校教育課
教諭	片平 仁	福島工業高校
常勤講師	菅野 剛	退職 (原町高校)
常勤講師	佐藤 英嗣	退職
常勤講師	後藤 沙織	退職 (橘高校)
常勤講師	志村 龍也	退職 (いわき翠の杜教諭)
養護教諭(期付)	萩原 香澄	退職
非常勤月手当講師	齊藤 義樹	退職

平成27年度 転入者

職名	氏名	前勤務先	教科
教頭	森 和茂	安積 高校	数 学
事務長	石川 秀司	精神保健福祉センター	
教諭	富良謝和信	教育センター	国 語
教諭	真柴 毅	大笹生養護学校	芸術(美術)
常勤講師	佐久間優介		公 民
常勤講師	中村由紀子	川 俣 高 校	数学・情報
常勤講師	宗像 佑磨		理科(物理)
常勤講師	佐藤 英嗣	継 続	保健体育
常勤講師	阿部 隆	橘 高 校	英 語
養護教諭(期付)	萩原 香澄	継 続	
非常勤月手当講師	齊藤 義樹	継 続	英 語
非常勤月手当講師	渡部 亜耶		英 語
時間講師	菅野 智晶		数 学

たときに、サインを書く練習をしておいた方がいいよと言ってサイン(おそらく第一号)を書いてもらいました。ますますの活躍を期待するとともに、後輩たちもさらに上を目指してほしいと切に祈っています。

二十二期で担任したのクラスでは三年生の時に東校祭があり、生徒と一緒に仮装をし仮装行列を行ったことが思い出されます。今年も八月末に東校祭があり東高生の熱気を感じましたが、やはり担任として生徒と一緒に盛り上がるのができたそのときの東校祭は格別でした。

先日その担任した生徒の結婚式に列席しました。長いこと教員をしていると生徒の結婚式に

呼ばれることが多いのですが、担任した生徒同士の結婚式は初めてでした。彼等は高校時代から付き合っていたわけではなく、卒業してからのクラスの同級会で何度か会うたびに愛を深めていったということでした。新郎はソフトボール部、新婦はテニス部に所属していたのでその仲間たちや、お互いの大学の仲間が大勢列席し楽しい結婚式でした。友人代表スピーチでは、それぞれの東高の友人が話をしましたが、一生懸命面白いことを言おうとしているのですが真面目すぎて微妙な感じで、それでも懸命に話をする様子に東高の生徒らしさを見ることができたような気がしました。

現在東高は、大規模改修工事が行われており、生徒には負担を強いることになりますが、大変なときこそ真価が問われるとも言えます。工事の騒音や不便な状況に負けず、生徒にはぜひ日々の努力を続けて欲しいと思います。

少し大げさかも知れませんが人生はいろなことが起きます。山中鹿之助は「我に七難八苦を与えたまえ」と祈り、松岡修造は「崖っぷち大好き」と言っています。それらを楽しむ境地になるのはかなり難しいと思いますが、生徒たちには強い心と意欲で成長してほしいと思います。

編集後記

今回の福島東高校同窓会会報第十二号発行にあたり原稿や資料を寄稿いただきました同窓会会長をはじめ皆様方にはご多用のところ、ご協力くださいまして厚く御礼申し上げます。

今年の東校祭は三年に一度の一般公開で行われました。開祭式のバルーンリリースに始まり、仮装行列では福島駅前広場でのパフォーマンスに平日にもかかわらず大勢の観客の皆さんから盛大な拍手を頂きました。一般公開は残念ながら雨模様となっていましたでしたが多数の来場者をお迎えして、趣向を凝らしたクラス企画や部活動の縁日を楽しんで頂きました。後夜祭では雨も上がり、弓道部による火花有志バンドの演奏、打ち上げ花火が行われました。東高生一体となって最高の盛り上がりを見せ、高揚感や感動を東高生全員で感じ合うことができました。

東高に赴任し二回目の公開文化祭でしたが自分の高校時代の文化祭に比べても、非常に手の込んだ質の高いクラス企画や時間をみつつけて練習を重ねたと思わせるような仮装パフォーマンス、教室や廊下の装飾などを見

ても、短い準備期間でよくこれだけのものを準備し実行したものだと思えるほどの情熱やパワーにたく感心させられました。在校生にとって高校時代の大きな思い出の一つとなったことでしょう。

日頃、勉強・部活と文武両道に邁進している東高生にとって、文化祭などの学校行事を通しての経験も彼らの今後の人生において大きな糧となることでしょう。

同窓生の皆様も機会がありましたら、学校行事や部活動の大等在校生の活動のご覧になって頂けたらと思います。

最後になりましたが同窓生の皆様方におかれましては、今後とも本校の教育活動にご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

(第十二期生 菅野 真幸)

